

授 業 概 要

科目名	心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
「こころ」の基本的な仕組みについて理解し、人の心理面をさまざまな視点から考えることが出来るようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として16年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。私たち(対人援助職)が知っておくべき心理学の基礎知識を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
心理学【カレッジ版】 医学書院 著者代表:山村豊 2017年 第1版					授業内容の復習。 ・誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。 ・教科書を(参考書的に)読み直してみましょう。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 この科目の進め方や、心理学の全体像をつかむ。 (これから始まる授業の内容をスムーズに理解するための日)				9	【授業単元】 定期テストの概要&動物心理学 【到達目標】 定期テストの概要について理解する。新たな知識の発見。 動物の心理について、いくつか説明できる。 キーワード: 定期テスト、動物 など			
2	【授業単元】 「こころ」の歴史を知ろう。(前編) 【到達目標】 新たな知識の発見。心理学の学問の成り立ちを、簡潔に説明できる。 キーワード: 科学、無意識 など				10	【授業単元】 人の学びとやる気について ～学習～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「学習」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 学習、動機づけ など			
3	【授業単元】 「こころ」の歴史を知ろう。(後編) 【到達目標】 新たな知識の発見。心理学の学問の成り立ちを、簡潔に説明できる。 キーワード: 行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性心理学 など				11	【授業単元】 「私らしさ」について考えてみよう ～性格(前編)～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「性格」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 類型論、特性論 など			
4	【授業単元】 いろんな刺激をナイスキャッチ ～感覚(前編)～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「感覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 感覚、五感 など				12	【授業単元】 「私らしさ」について考えてみよう ～性格(後編)～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「性格」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 生得説、経験説 など			
5	【授業単元】 いろんな刺激をナイスキャッチ ～感覚(後編)～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「感覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 錯覚、感情 など				13	【授業単元】 人が生まれてから年老いていくまで ～発達(前編)～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「発達」に伴うこころの変化について、簡潔に説明できる。 キーワード: 発達のとらえ方、赤ちゃん、他人の気持ち など			
6	【授業単元】 人って世界をどうとらえているの? ～知覚～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「知覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 知覚、アフォーダンス など				14	【授業単元】 人が生まれてから年老いていくまで ～発達(後編)～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「発達」に伴うこころの変化について、簡潔に説明できる。 キーワード: 友達づきあい、アイデンティティ、中年期・老年期 など			
7	【授業単元】 情報の倉庫たち ～記憶～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「記憶」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 長期記憶、短期記憶 など				15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 計15回の総合計得点:60点以上			
8	【授業単元】 考えるってどういうこと? ～思考、知能～ 【到達目標】 新たな知識の発見。「思考」や「知能」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 問題解決、推理、知能 など				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。 ②小テスト(各回の合計)が40点満点。 ②の内訳は、 第1回授業 … 1点 第2～14回 … 3点 × 13回 = 39点 (以上 合計で40点)				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
本科目は「ひと」を理解するためにあります。ただし、この科目を受ければ分かる、というよりも、実際にあなたが誰かと関わった際、その誰かを理解するための「ヒント集」というイメージです。ぜひ多くのヒントを手に入れて下さい。					※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テスト、小テストは資料持ち込み可。				

授 業 概 要

科目名	基礎学習法A	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	藤 雅 茂		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本授業の目的は「スタディスキル」の獲得である。具体的にはノートの取り方、テキストの読解、文献や資料の検索、要約の方法、考えのまとめ方、レポートの書き方等である。そのために必要な最低限の数理科学の基礎知識の習得と、基本的なデータ処理方法(統計検定3級程度)、レポートの書き方(アカデミックライティング)を学び、作業療法士に必要とされる適切なデータと知見の表現方法の獲得を目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
公務員試験対策を長年教鞭をとってきた教員が、講義、グループワーク等を通じて、作業療法士の国家試験に対応できるスタディスキルと実習等で必要となるレポートの書き方に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【参考図書】独学大全、読書猿、ダイヤモンド社(2020) 【参考図書】数字のセンスを磨く、筒井淳也、光文社(2023)					自宅でのファイリング、テキストの要約、文献や資料の検索、数理科学の問題の解答において、毎回授業時間外の作業が求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (1)ガイダンス 本授業の位置づけ (2)スタディスキルとは何か				9	【授業単元】 力学—位置・速度・加速度			
	【到達目標】 「動機付け」、「探す」、「読む」、「考える」、「書く」、「身につける」という段階を踏んで、「スタディスキル」は習得される。今までのスタディスキルを各自で振り返り、専門学校での学びにおいて、どのようなスタディスキルを身につけなければいけないのか説明できるようにする。					【到達目標】 等加速度直線運動において、速度、加速度、距離を求めることができる。			
2	【授業単元】 単位と計算(国際基本単位)				10	【授業単元】 力学—力と運動			
	【到達目標】 国際基本単位、国際組立単位を適切に扱うことができる。 長さ・面積・体積の計算ができる。					【到達目標】 運動の3法則を説明できる。 運動方程式を用い運動の問題を解答できる			
3	【授業単元】 計算の基礎知識—四則演算、計算順の鉄則				11	【授業単元】 力学—この原理			
	【到達目標】 コメディカルで必要とされる基礎的な計算を行うことができる。 カウブ指数、ローレル指数、BMI等の計算をすることができる。					【到達目標】 てこの原理を理解し、ポデメカニクスに関する問題を解答できる。			
4	【授業単元】 計算の基礎知識—指数・対数				12	【授業単元】 力学—仕事量とエネルギー			
	【到達目標】 指数、対数計算をすることができる。 pHの計算をすることができる。					【到達目標】 仕事量とエネルギーの関係を説明できる。 運動エネルギーを仕事量から導くことができる。 熱エネルギーをカロリーで表すことができる。			
5	【授業単元】 計算の基礎知識—割合の表し方				13	【授業単元】 波動			
	【到達目標】 「比べる量」「比べられる量」「もとにする量」の意味を理解し、割合に関する問題を解答できる。 溶液の濃度計算ができる。					【到達目標】 波動を表すことができる。 波の進行の速さを計算できる。 音の3要素を説明できる。			
6	【授業単元】 計算の基礎知識—比(比例式、比例の配分)				14	【授業単元】 熱			
	【到達目標】 3大エネルギーの摂取量の配分といった比例式を用いた計算ができる。					【到達目標】 物質の三態について説明できる。 熱と温度の関係を説明できる。			
7	【授業単元】 計算の基礎知識—速さ				15	【授業単元】 期末試験 前期第9回～14回の振り返り			
	【到達目標】 時間、距離、速さの三要素の関係を理解し、看護師国家試験に出題される輸液の所要時間を はじめとした速さに関する問題を解答できる。					【到達目標】 速度からエネルギーまでの基本的な計算と波動に関しての計算ができる。			
8	【授業単元】 中間試験 前期第2回～7回までの振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、 AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15 点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整 数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 医療分野で必要とされる基礎的な計算を行うことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
学習過程のすべてに学習者自身が能動的にかかわることが重要である。本授業で得られる知見・知識を他科目にどう応用させていくかが問われる。									

授 業 概 要

科目名	基礎学習法B	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	藤 雅 茂		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本授業の目的は「スタディスキル」の獲得である。具体的にはノートの取り方、テキストの読解、文献や資料の検索、要約の方法、考えのまとめ方、レポートの書き方等である。そのために必要な最低限の数理科学の基礎知識の習得と、基本的なデータ処理方法(統計検定3級程度)、レポートの書き方(アカデミック・ライティング)を学び、作業療法士に必要とされる適切なデータと知見の表現方法の獲得を目指す。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
公務員試験対策を長年教鞭をとってきた教員が、講義、グループワーク等を通じて、作業療法士の国家試験に対応できるスタディスキルと実習等で必要となるレポートの書き方に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【参考図書】 独学大全、読書猿、ダイヤモンド社 (2020) 【参考図書】 数字のセンスを磨く、筒井淳也、光文社 (2023)					自宅でのファイリング、テキストの要約、文献や資料の検索、数理科学の問題の解答において、毎回授業時間外の作業が求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション (授業の内容と進め方、学習方法) ・統計学の基礎 データの収集と変数の分類 【到達目標】 標本調査の意味と必要性を理解し、標本の抽出方法を説明することができる。 スティーブンスの分類を適用して、データを分類することができる。				9	【授業単元】 統計学の基礎—二変量の関係 【到達目標】 質的変量同士の関係を説明できる。 量的変量同士の関係を説明できる。 相関係数を求めることができる。			
2	【授業単元】 統計学の基礎—データの視覚化 【到達目標】 データに応じたグラフ表現ができる。 院内報告書などの資料作成に必要なグラフを作成できる。				10	【授業単元】 統計学の基礎—記述統計学と推測統計学 【到達目標】 確率変数と確率分布を説明できる。			
3	【授業単元】 統計学の基礎—データの要約(1) 【到達目標】 データの性質を理解し、スティーブンスの4尺度を用いて分類できる。 度数分布表及び度数分布図を作成できる。				11	【授業単元】 統計学の基礎—推定 【到達目標】 点推定の値を求められる。 区間推定の値を求められることができる。			
4	【授業単元】 統計学の基礎—データの要約(2) 【到達目標】 基本統計量(代表値)を求めることができる。 代表値の値を用いて、集団の特徴を把握できる。				12	【授業単元】 言語表現を整える—序論・本論・結論/中心文・支持文 【到達目標】 アカデミックライティングの全体構成を理解し、 中心文と支持文を用いて文章を作成することができる。			
5	【授業単元】 統計学の基礎—データの要約(3) 【到達目標】 基本統計量(散布度)を求めることができる。 散布度の値を用いて、集団の特徴を把握できる。				13	【授業単元】 言語表現を整える—引用方法・参考文献 【到達目標】 直接引用と間接引用の形式を理解し、引用文を用いた文章を作成することができる。 参考文献リストを作成できる。			
6	【授業単元】 統計学の基礎—ばらつき表現 【到達目標】 範囲、四分位偏差を求めることができる。 変動係数を求めることができる。				14	【授業単元】 言語表現を整える—数値表現、図表・データの表現 【到達目標】 アカデミックスタイルにおける数値表現を用いて文章を作成することができる。 図表やグラフを用いた文章を作成することができる。			
7	【授業単元】 統計学の基礎—統計量の概算 【到達目標】 度数分布表から統計量を概算できる。				15	【授業単元】 期末試験 前期第9回～14回の振り返り 【到達目標】 6～8段落で構成された1600字程度のレポートをアカデミック・ライティングの形式で作成できる。			
8	【授業単元】 中間試験 前期第2回～7回までの振り返り 【到達目標】 基礎統計量を算出して、データを適切な方法でまとめることができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
学習過程のすべてに学習者自身が能動的にかかわることが重要である。本授業で得られる知見・知識を他科目にどう応用させていくかが問われる。									

授 業 概 要

科目名	情報処理入門		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ	
学科 コース	作業療法士科夜間部		学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書を作成できる ・図解や画像を駆使した、訴求力のあるプレゼン資料を作成して発表できる 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 CCT入門1 web検索、マウスの操作、PCトラブル時の解決方法				9	【授業単元】 PowerPointダイジェスト 発表シナリオ作成			
	【到達目標】 検索力を身につけ問題を解決できる					【到達目標】 スライド作成の基本的な操作ができる 発表用のシナリオを作成できる			
2	【授業単元】 CCT入門2 ITリテラシー 滋慶学園 ITリテラシー理解度テスト				10	【授業単元】 プレゼン基礎1 発表スライド作成			
	【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる					【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる			
3	【授業単元】 CCT入門4 Officeの基本操作				11	【授業単元】 プレゼン基礎2 発表スライド作成			
	【到達目標】 Excelの基本的な操作ができる					【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる			
4	【授業単元】 Word基礎1 基本操作				12	【授業単元】 プレゼン基礎3 発表スライド作成			
	【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる					【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる			
5	【授業単元】 Word基礎2 画像や図形				13	【授業単元】 PowerPoint4 発表			
	【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる					【到達目標】 作成したプレゼン資料を発表できる			
6	【授業単元】 Word基礎3 表の作成				14	【授業単元】 PowerPoint試験対策			
	【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる					【到達目標】 PowerPoint講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる			
7	【授業単元】 Word試験対策				15	【授業単元】 PowerPoint定期試験、振り返り			
	【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、PowerPoint資料を作成できる			
8	【授業単元】 Word中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる				<p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験はPCを使用したPowerPointスライド作成を行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

授 業 概 要

科目名	人間関係論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
コミュニケーションの構成要素を理解し、対人援助職の基本的能力の素地を築くことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害作業療法に15年以上従事しており、2015年より東京福祉専門学校専任教員となる。大学院にて教育、人間関係、モチベーションについて研究。修士(医療福祉教育・管理学)、博士(保健医療学)。本授業では医療従事者として適切な人間関係を築く基礎を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
(参考図書)コミュニケーションスキルアップ検定 配布プリント									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション①				9	【授業単元】 話す、聴く、グループでの会話(P14～33)			
	【到達目標】 学校の基本ルールとクラスルールを理解し、より良い人間関係が築けるよう準備を整える。					【到達目標】 学んだコミュニケーションスキルを日常的に実践できる。			
2	【授業単元】 オリエンテーション②				10	【授業単元】 挨拶、自己紹介、関係性を深める言葉、頼み方、断り方、自己主張(P42～55)			
	【到達目標】 学校の基本ルールとクラスルールを理解し、より良い人間関係が築けるよう準備を整える。					【到達目標】 学んだコミュニケーションスキルを日常的に実践できる。			
3	【授業単元】 オリエンテーション③				11	【授業単元】 報告・連絡・相談、議論と意見交換、交渉と説得の基本(P56～68) ディベートの準備			
	【到達目標】 学校の基本ルールとクラスルールを理解し、より良い人間関係が築けるよう準備を整える。					【到達目標】 学んだコミュニケーションスキルを日常的に実践できる。 ディベートの準備をして発表に備えることができる。			
4	【授業単元】 オリエンテーション④				12	【授業単元】 ディベート体験 プレゼンテーションの基本(P72) プレゼンテーションの準備			
	【到達目標】 学校の基本ルールとクラスルールを理解し、より良い人間関係が築けるよう準備を整える。					【到達目標】 ディベート体験を通して、討論の難しさを実感できる。 学んだコミュニケーションスキルを日常的に実践できる。			
5	【授業単元】 コミュニケーション論①コミュニケーションはスキル～				13	【授業単元】 アンガーマネジメント(P80～92) 基本的社会スキル、実践1-2(P94～124)			
	【到達目標】 コミュニケーションを学ぶことの意義を理解する。					【到達目標】 学んだコミュニケーションスキルを日常的に実践できる。			
6	【授業単元】 コミュニケーション論①コミュニケーションはスキル～				14	【授業単元】 サービスマインドについて(P126～157) 特別プログラム：職業的アイデンティティと愛着			
	【到達目標】 コミュニケーションを学ぶことの意義を理解する。					【到達目標】 学んだコミュニケーションスキルを日常的に実践できる。			
7	【授業単元】 認知特性				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 自己の認知特性を理解し、学習やコミュニケーションの特徴を把握する。					【到達目標】 定期テストの合格			
8	【授業単元】 認知特性				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・定期テストは筆記試験で行う。 ・小テストは最大5点満点の確認テストおよび課題提出にて点数を付与する。				
	【到達目標】 自己の認知特性を理解し、学習やコミュニケーションの特徴を把握する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	人の生活と作業	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	濱畑 法生	
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
人は24時間365日、何らかの活動をしている。仕事や遊びはもちろん、睡眠も作業の一つである。ここでは、自分自身の生活がどのように成り立っているかを調べ、作業という概念をしっかりと理解し、人の生活を構成する要素について概観し、ICF(国際生活機能分類)が提示している内容を、実際の生活レベルで理解する。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
作業療法士免許を取得して35年経験があり、その間臨床現場で15年、大学教員として16年、専門学校で2年の教育研究歴を持つ。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
「作業」って何だろうー作業科学入門第2版					30分程度の復習を要する。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、自己開示(紹介)			9	【授業単元】 国際生活機能分類(ICF)について			
	【到達目標】 作業療法が手段とするものは、人の営みで行われるすべての活動である。ここでは、その中でも一番重要なコミュニケーション手段を習得するために、まず自己開示の方法を学ぶ。				【到達目標】 WHO(世界保健機関)が定めた国際生活機能分類について解説する。			
2	【授業単元】 コミュニケーション演習			10	【授業単元】 ディベート②(ゲーム)			
	【到達目標】 人が用いるコミュニケーションの手段は言葉だけではない。ここでは、他の手段を用いたコミュニケーション方法を、ゲームを使って演習する。				【到達目標】 コミュニケーションを行うと、時に意見の違う場合があり、両者がすれ違いを生み出し結果にならないことが多い。ここでは、ゲームを用いてグループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を演習する。			
3	【授業単元】 自分の生活を振り返るー生活時間構造			11	【授業単元】 作業科学について①			
	【到達目標】 病気や障害を持つと普通の生活がうまく送れなくなる。ここでは、普通の生活とは何か考えるとも、自分の生活を振り返り、人が日々どのように生活しているかを考察する。				【到達目標】 作業科学の諸概念について、テキストを元に解説する。			
4	【授業単元】 高齢者の生活時間構造から考える①			12	【授業単元】 作業科学について①			
	【到達目標】 人の生活について、データをもとに考えていく。				【到達目標】 作業科学の作業療法について、テキストを元に解説する。			
5	【授業単元】 高齢者の生活時間構造から考える②			13	【授業単元】 ディベート③(エレベーター)			
	【到達目標】 人の生活について、データをもとに考えていく。また、それを改善するために行われている実践例を考察する。				【到達目標】 コミュニケーションを行うと、時に意見の違う場合があり、両者がすれ違いを生み出し結果にならないことが多い。ここでは、意見が対立するテーマでグループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を演習する。			
6	【授業単元】 ディベート①(国連勧告)			14	【授業単元】 インテーク演習			
	【到達目標】 コミュニケーションを行うと、時に意見の違う場合があり、両者がすれ違いを生み出し結果にならないことが多い。ここでは、意見が対立するテーマでグループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を演習する。				【到達目標】 自分がインテークを行う場合の方法について、項目を整理し、実際に1対1のインテーク場面で演習する。			
7	【授業単元】 作業科学について①			15	【授業単元】 まとめ、試験			
	【到達目標】 作業の意味について、テキストを元に解説する。				【到達目標】 科目全体を振り返り、終了後試験を行う。			
8	【授業単元】 作業科学について①、確認テスト			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 作業の持つ意味について振り返り、確認テストを行う。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び確認テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表内容、実技試験、筆記試験またはTeamsを利用して行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
演習が多いので、積極的に参加すること。								

授 業 概 要

科目名	国際教育学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	濱畑法生		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解を深めることができる。 ・世界で行われている作業療法実践の理解を深めることができる。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害領域・老年期障害領域において作業療法を実践してきた教員複数名による講義を実施。 ・現在世界で活躍している、あるいは経験のある作業療法士から作業療法の実践のイメージをする。 									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法概論 第4版 医学書院 ・作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業学 第3版 メディカルビュー ・国際リハビリテーション学 第1版 羊土社 					各回終了後30分程度の復習を要する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】※オリエンテーション含む <ul style="list-style-type: none"> ・作業とは・その人らしい生活を支援する作業療法について 課題：自分にとって大切な作業とは？ ・文化とは・文化を理解し、対処する能力について 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・作業とは何かを理解し、その人にとって大切な作業を実現することを支援する作業療法を知ることができる。 ・文化を理解し対処する能力の重要性を理解することができる ・文化に配慮したりリハビリテーションを実施する際の留意点を理解することができる 				9	【授業単元】 <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし企画を実施する ・適時、課題を提出する 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・留学生が育った文化に配慮しながら、留学生が楽しいと感じる作業をともに楽しむことができる ・タイムスケジュール表に沿って企画運営することができる ・決められた時間に課題を提出(状況報告)することができる 			
2	【授業単元】 <ul style="list-style-type: none"> ・留学生とのオンライン交流 ・留学生が感じる楽しみや喜びの聴取 課題：留学生が楽しんだり喜んだりできる作業を企画する 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語学校の留学生とコミュニケーションを図ることができる ・留学生と楽しむ作業を企画することができる 				5				
3	【授業単元】 <ul style="list-style-type: none"> ・留学生おもてなし企画の共有 ・グループで企画をまとめ、当日のタイムスケジュールを作成 ・留学生に配布するタイムスケジュール表を作成する 				1				
5	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・異文化を理解し、留学生が楽しめる作業を企画することができる ・留学生が当日のタイムスケジュールを把握できるしおりを作成することができる 				3	【授業単元】 <ul style="list-style-type: none"> ・アルバム作成 ・プレゼント ・留学生と当日の振り返り 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・企画を通じて学んだことについて振り返ることができる ・国際教育学全体を通して学びに気づくことができる 			
6					5				
7	【授業単元】 <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし企画を留学生にプレゼンする ※修正箇所があれば午後修正する 				1	【成績評価の方法と基準】 国際教育学の成績判定は6段階評価の対象外科目であり、評価はS(合格)、またはU(不合格)。よって出席状況、課題提出状況で合否を判定する。 出席に関してはほかの科目と同様、既定の授業時間数の10分の7に満たないものについては単位の認定をしない。 1・2コマは期間前となるため、事前の授業(録画)となる。 よって、1・2コマに関しては課題の提出もって出席とみなす。			
8	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが企画した内容を留学生に伝えることができる 				5				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
基本的には昼間部・夜間部合同のグループワーク活動となります。 内容が変更となる可能性もあるため、適時アナウンスします。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
解剖学、生理学の知識をつなげ、人間の身体の構造と機能について説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期リハビリテーション病院、訪問リハビリテーションにて勤務し、身体障害領域の小児から高齢者まで幅広く臨床経験があります。この授業では、主に生理学の授業で学んだ内容を振り返り、発表を通して理解を深めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
解剖学、生理学の使用教科書(授業内で適宜案内する)					解剖学、生理学の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 解剖学・生理学の復習1				9	【授業単元】 解剖学・生理学の復習8			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(細胞の構造や膜電位など)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(呼吸器系)を自分の言葉で説明できる			
2	【授業単元】 解剖学・生理学の復習2				10	【授業単元】 解剖学・生理学の復習9			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(神経系)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(泌尿器系)を自分の言葉で説明できる			
3	【授業単元】 解剖学・生理学の復習3				11	【授業単元】 解剖学・生理学の復習10			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(筋)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(消化器系)を自分の言葉で説明できる			
4	【授業単元】 解剖学・生理学の復習4				12	【授業単元】 解剖学・生理学の復習11			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(内分泌系)を自分の言葉で説明できる			
5	【授業単元】 解剖学・生理学の復習5				13	【授業単元】 解剖学・生理学の復習12			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(感覚)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(代謝と体温)を自分の言葉で説明できる			
6	【授業単元】 解剖学・生理学の復習6				14	【授業単元】 解剖学・生理学の復習13			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(血液)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(筋と骨)を自分の言葉で説明できる			
7	【授業単元】 解剖学・生理学の復習7				15	【授業単元】 総復習 定期テスト			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(心臓と循環)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。定期テストは筆記試験とする。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
解剖学、生理学の知識をつなげ、人間の身体の構造と機能について説明できる。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期リハビリテーション病院、訪問リハビリテーションにて勤務し、身体障害領域の小児から高齢者まで幅広く臨床経験があります。この授業では、主に解剖学の授業で学んだ内容を振り返り、発表を通して理解を深めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
解剖学、生理学の使用教科書(授業内で適宜案内する)					解剖学、生理学の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 解剖学・生理学の復習1				9	【授業単元】 解剖学・生理学の復習8			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(細胞の構造)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(体幹、背部の筋)を自分の言葉で説明できる			
2	【授業単元】 解剖学・生理学の復習2				10	【授業単元】 解剖学・生理学の復習9			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(組織)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(上肢の筋)を自分の言葉で説明できる			
3	【授業単元】 解剖学・生理学の復習3				11	【授業単元】 解剖学・生理学の復習10			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(骨の分類)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(下肢の筋)を自分の言葉で説明できる			
4	【授業単元】 解剖学・生理学の復習4				12	【授業単元】 解剖学・生理学の復習11			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(脊柱、椎骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(中枢神経、末梢神経)を自分の言葉で説明できる			
5	【授業単元】 解剖学・生理学の復習5				13	【授業単元】 解剖学・生理学の復習			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(上肢の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(間脳、脳幹)を自分の言葉で説明できる			
6	【授業単元】 解剖学・生理学の復習6				14	【授業単元】 解剖学・生理学の復習12			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(手、下肢の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(小脳、髄液)を自分の言葉で説明できる			
7	【授業単元】 解剖学・生理学の復習7				15	【授業単元】 総復習 定期テスト			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(頭部の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。定期テストは筆記試験とする。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	運動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の動きに関して基本的な知識を習得し、臨床および国家試験でのポイントを理解出来るようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切にし講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
(医学書院)・配布教材					授業内で提示した課題				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 オリエンテーション・バイオメカニクス① 運動学の勉強方法と授業の進め方				17・18	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 上肢帯 小テスト			
	【到達目標】 この授業での目標・評価・授業の進め方の共有 バイオメカ①:カと重心					【到達目標】 筋・神経の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする			
3・4	【授業単元】 バイオメカニクス①・② 小テスト				19・20	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 下肢帯 小テスト			
	【到達目標】 バイオメカ①:カと重心 バイオメカ②:床反力と身体運動 上記内容を理解する					【到達目標】 筋・神経の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする			
5・6	【授業単元】 バイオメカニクス③・④ 小テスト				21・22	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 体幹・顔面 小テスト			
	【到達目標】 バイオメカ③:並進運動と運動の法則 バイオメカ④:回転運動とモーメント 上記内容を理解する					【到達目標】 筋・神経の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする			
7・8	【授業単元】 バイオメカニクス⑤・⑥ 小テスト				23・24	【授業単元】 生体の構造と機能 ②感覚器の構造と機能 ④呼吸 小テスト			
	【到達目標】 バイオメカ⑤:エネルギーとパワー バイオメカ⑥:運動量と力積 上記内容を理解する					【到達目標】 生体の構造と機能 ②感覚器の構造と機能 ④呼吸 上記の基本的な知識を習得する			
9・10	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造 上肢帯 小テスト				25・26	【授業単元】 生体の構造と機能 ⑤血液と循環 ⑥体温調整 ⑦腎 小テスト			
	【到達目標】 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする					【到達目標】 生体の構造と機能 ⑤血液と循環 ⑥体温調整 ⑦腎 上記の基本的な知識を習得する			
11・12	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造 下肢帯 小テスト				27・28	【授業単元】 生体の構造と機能 ⑧栄養とエネルギー 小テスト			
	【到達目標】 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする					【到達目標】 生体の構造と機能 ⑧栄養とエネルギー 上記の基本的な知識を習得する			
13・14	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造 体幹 小テスト				29・30 11/22	【授業単元】 29:これまでの復習時間 30:定期試験・振り返り 後半			
	【到達目標】 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする					【到達目標】 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にし、その上で筋肉・神経の走行を図式できるようにする。 生体の構造の基本的な問題を出題する。			
15・16	【授業単元】 15:これまでの復習時間 16:定期試験・振り返り 前半				【成績評価の方法と基準】 評価方法:筆記試験 時期:小テスト、定期テスト(16回目・30回目) 配点方法:定期試験60点、小テスト等40点の配点で総合し、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。				
	【到達目標】 バイオメカニクスの基本事項・運動学用語の知識 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にする								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書など指示された持参物を忘れず持参すること。 説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。 積極的に授業に参加すること。									

授 業 概 要

科目名	運動学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<p>人体の身体運動について学び、分析することができる。正常な運動について説明ができる。動作分析の視点をみにつける事ができる。</p>									
<p>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切に講義を展開していく。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基礎運動学(医歯薬出版株式会社)・ 動作分析臨床活用講座(MEDICAL VIEW)・配布教材					授業内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 生体の構造 ①運動の中樞神経機構				9	【授業単元】 起き上がり動作②			
	【到達目標】 反射について理解する					【到達目標】 起き上がり動作の評価			
2	【授業単元】 運動発達				10	【授業単元】 起立・着座動作① レポート			
	【到達目標】 運動発達と反射の統合					【到達目標】 起居・着座動作動作の概要を理解する			
3	【授業単元】 姿勢				11	【授業単元】 起立・着座動作②			
	【到達目標】 姿勢分析の基本について理解する					【到達目標】 起居・着座動作動作の評価			
4	【授業単元】 姿勢の分析 レポート				12	【授業単元】 歩行			
	【到達目標】 姿勢分析の記録することができるようになる					【到達目標】 歩行の概要を理解する			
5	【授業単元】 運動と動作の分析				13	【授業単元】 歩行分析 レポート			
	【到達目標】 姿勢分析の記録することができるようになる					【到達目標】 歩行の評価			
6	【授業単元】 寝返り動作① レポート				14	【授業単元】 運動学習			
	寝返り動作の概要を理解する					【到達目標】 運動学習の概要を理解する			
7	【授業単元】 寝返り動作②				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 寝返りの評価					【到達目標】			
8	【授業単元】 起き上がり動作① レポート				【成績評価の方法と基準】 評価方法:レポート・定期テスト(15回目実施) 配点方法:定期試験60点、レポート40点の配点で総合し、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。				
	【到達目標】 起き上がり動作の概要を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書など指示された持参物を忘れず持参すること。説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。									

授 業 概 要

科目名	解剖学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野吉郎	
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 60 時間
【授業を通じての到達目標】								
生物としての人体の構造をミクロ、マクロの両視点から広く学び、作業療法士が身につけるべき人体の解剖学的見方を修得する								
【学習内容】								
医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造について、運動器(骨・筋)、神経系、内臓諸器官系にわけてわかりやすく解説する。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第5版)】医学書院				各回とも事前に配布する講義資料と教科書に目を通し、受講前に最低でも30分程度は講義範囲を予習することが望まれます				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 解剖学入門 人体の構成要素 I			17	【授業単元】 【筋学各論】 体幹背部の筋 上肢帯の筋			
	【到達目標】 ・生物としての人体の解剖学的見方を学ぶ ・細胞・組織・器官・器官系による人体の構成を包括的に見ることができるようになる ・人体の最小構成単位である細胞の基本構造を知る ・細胞周期と細胞分裂、細胞死のメカニズムを説明できる				【到達目標】 ・体幹背部の浅層と深層の筋(浅背筋、深背筋)の起始、停止、作用を説明できるようになる ・固有背筋を説明できる ・肩甲骨と肩関節の運動に関わる筋の配置と起始、停止、作用を節々にできる			
2	【授業単元】 人体の構成要素 II 人体の発生			18	【授業単元】 上肢の筋 胸壁、腹壁、骨盤の筋			
	【到達目標】 ・人体を構成する四大組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)の特徴と役割を説明できるようになる ・受精～着床～胚盤形成～胚子発生の概略と、主な組織の肺葉(胚盤)由来を理解する				【到達目標】 ・前腕、手、手指を動かす筋を説明できる ・手の内在筋の付着と作用を説明できる ・胸壁、腹壁、骨盤の筋の配置と作用を説明できる			
3	【授業単元】 【骨学総論】骨と骨格			19	【授業単元】 下肢の筋 頭頸部の筋			
	【到達目標】 ・骨の基本構造と発生・成長様式を説明できるようになる ・形状に基づいた骨の分類を説明できる ・人体の骨格を構成する骨の連結様式を説明できる				【到達目標】 ・大腿と下腿の筋、足の内在筋の付着と作用を説明できる ・浅頭筋、深頭筋の付着と作用を説明できる ・前頸筋、側頸筋の付着と作用を説明できる			
4	【授業単元】 【骨学各論】脊柱と椎骨			20	【授業単元】 【神経系総論】神経系の構成と発生 中枢神経系と末梢神経系 大脳			
	【到達目標】 ・脊柱の弯曲と、その機能的意義を理解する ・頸椎・胸椎・腰椎・仙椎それぞれを構成する椎骨の形態的特徴を説明できる ・胸郭を構成する骨の連結様式を学び、呼吸時の胸郭の動きを説明できるようになる				【到達目標】 ・神経系の発生の概要がわかる ・末梢神経系・中枢神経系の基本構造と役割の違いがわかる ・ニューロンの組織構造を説明できる ・大脳の基本構造、大脳皮質の組織構築と機能局在、大脳髄質の線維走行を説明できる、			
5	【授業単元】 骨髄を構成する骨 上肢帯の骨 自由上肢骨			21	【授業単元】 間脳(視床、視床下部) 脳幹(中脳、橋、延髄)の構造と機能			
	【到達目標】 ・寛骨(腸骨、恥骨、坐骨)の形態過程、仙骨との連結様式を説明できる ・上肢帯の骨を説明できる ・自由上肢骨の基本構造がわかる ・肩関節と肘関節の構造を説明できる				【到達目標】 ・間脳の基本構造と機能の概略を説明できる ・脳幹(中脳、橋、延髄)各部の特微的構造と役割の概要を説明できる ・脳幹を貫く下行性、上行性伝導路の役割を理解できる ・脳幹に局在する多数の神経核と脳神経(後述)の関係を説明できるようになる			
6	【授業単元】 手の骨 大腿、下腿、足の骨 下肢の関節			22	【授業単元】 小脳の構造と機能 脳の被膜 髄液の産生と循環路			
	【到達目標】 ・手根骨、中手骨、指骨の配列と関節の特徴を説明できる ・橈骨手根関節を説明できる ・大腿と下腿の骨、足の骨の基本構造と連結を説明できる ・下肢の主な関節の構造と動きの特徴を説明できる				【到達目標】 ・小脳の基本構造と主な線維連結を説明できる ・脳の被膜(硬膜、クモ膜、軟膜)の構造と役割を説明できる ・脳脊髄液の産生部位、産生の仕組みと循環路を説明できる			
7	【授業単元】 頭部の骨			23	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ・頭蓋、顔面を構成する骨の形態と配置、連結様式を説明できる ・副鼻腔を持つ骨を挙げることができる ・顎関節の構造と関節運動の特徴を説明できる				【到達目標】 ・総合判定で合格するに足る得点を定期試験で獲得する 後期第1週に行う人体解剖実習に向けての心構えができる			
8	【授業単元】 【筋学各論】脊柱と椎骨			24	【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 ・脊柱の弯曲と、その機能的意義を理解する ・頸椎・胸椎・腰椎・仙椎それぞれを構成する椎骨の形態的特徴を説明できる ・胸郭を構成する骨の連結様式を学び、呼吸時の胸郭の動きを説明できるようになる							
9	【授業単元】 【筋学各論】 筋の組織学的分類と微細構造 器官としての骨格筋の基本構造、付着様式、形態的分類			25				
	【到達目標】 ・横紋筋、平滑筋、骨格筋、心筋の組織構造の特徴を説明できる ・骨格筋の起始・停止、筋の補助装置を説明できる ・骨格筋を形態的に分類できる							
10	【授業単元】 【筋学各論】 筋の組織学的分類と微細構造 器官としての骨格筋の基本構造、付着様式、形態的分類			26				
	【到達目標】 ・横紋筋、平滑筋、骨格筋、心筋の組織構造の特徴を説明できる ・骨格筋の起始・停止、筋の補助装置を説明できる ・骨格筋を形態的に分類できる							
11	【授業単元】 【筋学各論】 筋の組織学的分類と微細構造 器官としての骨格筋の基本構造、付着様式、形態的分類			27				
	【到達目標】 ・横紋筋、平滑筋、骨格筋、心筋の組織構造の特徴を説明できる ・骨格筋の起始・停止、筋の補助装置を説明できる ・骨格筋を形態的に分類できる							
12	【授業単元】 【筋学各論】 筋の組織学的分類と微細構造 器官としての骨格筋の基本構造、付着様式、形態的分類			28				
	【到達目標】 ・横紋筋、平滑筋、骨格筋、心筋の組織構造の特徴を説明できる ・骨格筋の起始・停止、筋の補助装置を説明できる ・骨格筋を形態的に分類できる							
13	【授業単元】 【筋学各論】 筋の組織学的分類と微細構造 器官としての骨格筋の基本構造、付着様式、形態的分類			29				
	【到達目標】 ・横紋筋、平滑筋、骨格筋、心筋の組織構造の特徴を説明できる ・骨格筋の起始・停止、筋の補助装置を説明できる ・骨格筋を形態的に分類できる							
14	【授業単元】 【筋学各論】 筋の組織学的分類と微細構造 器官としての骨格筋の基本構造、付着様式、形態的分類			30				
	【到達目標】 ・横紋筋、平滑筋、骨格筋、心筋の組織構造の特徴を説明できる ・骨格筋の起始・停止、筋の補助装置を説明できる ・骨格筋を形態的に分類できる							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
毎回の授業は学生諸君が配付資料の内容をあらかじめ予習してくることを前提にしている。講義室では予習して気づいた疑問点やわかりにくかったことを積極的に質問し、その授業の中で解決することを目指してほしい。								

授 業 概 要

科目名	解剖学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	高野吉郎		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
生物としての人体の構造をミクロ、マクロの両視点から広く学び、作業療法士が身につけるべき人体の解剖学的見方を修得する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造について、運動器(骨・筋)、神経系、内臓諸器官系にわけてわかりやすく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第5版)】医学書院					各回とも事前に配布する講義資料と教科書に目を通し、受講前に最低でも30分程度は講義範囲を予習することが望まれます				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 人体解剖実習【於順天堂大学医学部】 【到達目標】 ・解剖実習進行中のご遺体に触れ、剖出された組織や臓器を詳細に観察することで、体の構造と機能の理解を深める				9	【授業単元】 循環器② 【到達目標】 ・主要動脈の分枝と走行を説明できる ・静脈系の血液灌流の仕組みを説明できる ・大静脈系、奇静脈系、門脈系を区別できる ・胎児の血液循環の特徴を説明できる			
2	【授業単元】 人体解剖実習【於順天堂大学医学部】 【到達目標】 解剖実習進行中のご遺体に触れ、剖出された組織や臓器を詳細に観察することで、体の構造と機能の理解を深める				10	【授業単元】 呼吸器 【到達目標】 ・上気道、下気道、呼吸部を区別できる ・気道の壁と気道上皮の構造の特徴を説明できる ・肺と気管支の左右差を説明できる ・肺の機能血管と栄養血管を区別できる			
3	【授業単元】 脊髄と脊髄神経 【到達目標】 ・脊髄の基本構造を説明できる ・脊髄神経叢と神経叢の主な終枝を説明できる				11	【授業単元】 消化器① 【到達目標】 ・口腔の構造と機能を説明できる ・消化管各部の壁と粘膜上皮の構造の違いを説明できる			
4	【授業単元】 脳神経① 【到達目標】 ・脳神経の線維構成と走行、支配域を説明できる ・脳幹における脳神経核の局在部位がわかる				12	【授業単元】 消化器② 【到達目標】 ・消化管の付属線(肝臓・胆嚢・膵臓)の構造と機能を説明できる			
5	【授業単元】 脳神経 【到達目標】 ・脳神経の線維構成と走行、支配域を説明できる ・脳幹における脳神経核の局在部位がわかる				13	【授業単元】 泌尿器 【到達目標】 ・腎臓の基本構造と尿産生装置の概要を説明できる ・尿管(腎杯、腎盂、尿管、膀胱、尿道)の構造を説明できる			
6	【授業単元】 神経伝導路 【到達目標】 ・主な神経伝導路を挙げることができる ・遠心性伝導路(錐体路と錐体束)の線維走行の特徴を説明できる ・主な求心性(上行性)伝導路の脊髄白質における局在と線維走行を説明できる				14	【授業単元】 内分泌器 【到達目標】 ・外分泌と内分泌の分泌様式の違いを説明できる ・主な内分泌器の構造と機能がわかる ・視床下部と下垂体による全身のホルモン産生の制御の仕組みがわかる			
7	【授業単元】 自律神経系 【到達目標】 ・交感神経系と副交感神経系ニューロンの局在部位の特徴を説明できる ・交感神経系と副交感神経系における自律神経節の局在性の違いを説明できる ・自律神経系における知覚ニューロンの求心路を説明できる				15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 総合判定で合格するに足る得点を定期試験で獲得する			
8	【授業単元】 中テスト 循環器① 【到達目標】 ・中テストで後期前半の履修内容を十分に理解していることを示す ・血液と体液循環の概要を説明できる ・心臓の構造と機能を説明できる				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 毎回の授業は学生諸君が配付資料の内容をあらかじめ予習してくることを前提にしている。講義室では予習して気づいた疑問点やわかりにくかったことを積極的に質問し、その授業の中で解決することを目指してほしい。									

授 業 概 要

科目名	生理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
生理学の基礎知識を身につけることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害領域の回復期リハビリテーションを主として急性期・老健施設にて7年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。復習も取り入れながら授業を進め、知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院					授業内容の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 細胞の構造と機能、興奮伝導				9	【授業単元】 尿の生成と排泄 酸塩基平衡			
	【到達目標】 授業の進め方を理解できる 膜電位を説明できる シナプス伝達を説明できる					【到達目標】 腎臓の機能を説明できる 酸塩基平衡について説明できる			
2	【授業単元】 神経系				10	【授業単元】 消化と吸収			
	【到達目標】 末梢神経について説明できる 中枢神経について説明できる					【到達目標】 各消化管の消化メカニズムを説明できる			
3	【授業単元】 筋と骨				11	【授業単元】 内分泌			
	【到達目標】 筋の収縮について説明できる 骨吸収と骨形成を説明できる					【到達目標】 各ホルモンの作用について説明できる			
4	【授業単元】 感覚				12	【授業単元】 代謝と体温、生殖			
	【到達目標】 体性感覚について説明できる 特殊感覚について説明できる					【到達目標】 エネルギー代謝を説明できる 体温調節を説明できる 生殖機能について説明できる			
5	【授業単元】 血液				13	【授業単元】 運動生理			
	【到達目標】 血液の組成と機能について説明できる					【到達目標】 運動に伴う全身の変化を説明できる			
6	【授業単元】 心臓と循環				14	【授業単元】 疾患と生理学			
	【到達目標】 血液循環について説明できる 心臓の働きについて説明できる					【到達目標】 生理学の知識を用いて代表的な内部疾患の説明ができる			
7	【授業単元】 呼吸とガス交換				15	【授業単元】 復習 定期テスト			
	【到達目標】 呼吸器について説明できる ガス交換について説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	生理学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
生理学の知識を用いて、人間の生体反応を説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害領域の回復期リハビリテーションを主として急性期・老健施設にて7年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。生理学の知識を使って、生体反応を説明できるようにグループワークを中心に進めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院					授業内容の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 生理学の復習				9	【授業単元】 骨、筋、神経系の調べ学習			
	【到達目標】 授業の進め方を理解できる 前期の復習を行い、理解度を確認できる					【到達目標】 骨、筋、神経系に関する知識の伝達ができる			
2	【授業単元】 血圧と脈拍				10	【授業単元】 骨、筋、神経系の調べ学習：発表			
	【到達目標】 血圧と脈拍のメカニズムを説明できる					【到達目標】 骨、筋、神経系に関する知識の伝達ができる			
3	【授業単元】 スパイロメーター				11	【授業単元】 循環系、呼吸器系の調べ学習			
	【到達目標】 スパイロメーターで測定できるものを説明できる					【到達目標】 循環器系、呼吸系に関する知識の伝達ができる			
4	【授業単元】 呼気分析				12	【授業単元】 循環系、呼吸器系の調べ学習：発表			
	【到達目標】 呼気分析で測定できるものを説明できる					【到達目標】 循環器系、呼吸系に関する知識の伝達ができる			
5	【授業単元】 筋収縮				13	【授業単元】 消化器系、排泄系の調べ学習			
	【到達目標】 筋収縮の種類とメカニズムについて説明できる					【到達目標】 消化器系、排泄系に関する知識の伝達ができる			
6	【授業単元】 反射				14	【授業単元】 消化器系、排泄系の調べ学習：発表			
	【到達目標】 反射のメカニズムを説明できる					【到達目標】 消化器系、排泄系に関する知識の伝達ができる			
7	【授業単元】 嚥下				15	【授業単元】 復習 定期テスト			
	【到達目標】 嚥下について説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 9～14回の小テストは発表形式の試験とする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	一般臨床医学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学び理解できること									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士が、臨床現場で必要となる医学知識を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々なリスク管理や作業療法の展開の仕方を学ぶ									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料、指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 医学概論(医学の基本、疾病の概念) 【到達目標】 医学の歴史について説明できる、生命倫理について説明できる、医の倫理について説明できる、 疾病の定義と分類について説明できる				9	【授業単元】 中枢神経の障害と臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、中枢神経の障害の一般的疾患について説明できる			
2	【授業単元】 臨床医学総論(病理学概論、疾病の診断、疾病の治療) 【到達目標】 疾病の原因と身体的変化を理解する、疾病診断の概要を理解する、疾病治療の概要を理解する				10	【授業単元】 末梢神経・筋の障害と臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、末梢神経・筋障害の一般的疾患について説明できる			
3	【授業単元】 リハビリテーション医療の総論、健康と生活機能の評価、リハビリテーション計画 チームと他職種連携 【到達目標】 リハビリテーション医学の概要について理解する、健康と生活機能に関わる評価について理解する。 リハビリテーション計画について理解する、リハビリテーションチームと他職種連携について理解する、 かつそれぞれについて説明できる				11	【授業単元】 小児の障害と臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、小児の障害の一般的疾患について説明できる			
4	【授業単元】 救急医学 【到達目標】 救急医療体制について説明できる、症候群について説明できる、心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる				12	【授業単元】 内部障害と臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、各内部障害の一般的疾患について説明できる			
5	【授業単元】 臨床心理学(基礎理論、発達心理および臨床心理) 【到達目標】 人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ 臨床心理学の基礎について理解する 発達に沿った心理と心理療法について理解する				13	【授業単元】 がん関連障害と臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、がん関連障害の一般的疾患について説明できる			
6	【授業単元】 精神障害と臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる、精神障害の一般的疾患について説明できる				14	【授業単元】 皮膚障害と臨床医学 【到達目標】 疫学について説明できる、病理・病態・症候について説明できる、評価・検査について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる			
7	【授業単元】 骨関節障害と臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる、骨関節疾患の一般的疾患について説明できる				15	【授業単元】 老年期障害と臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、老年期障害の一般的疾患について説明できる			
8	【授業単元】 痛みと臨床医学 【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる。 リハビリテーション医療について説明できる、慢性疼痛の分類について説明できる				【成績評価の方法と基準】 ○科目の評価は、定期試験60%、授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 ○試験はteams上で行う(詳細は授業動画内、teams上でアナウンスを行う)。 ○授業の小テストは合計65点、中テスト(おおよそ半分の授業回数で実施予定)は15点満点とする(合計80点)。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
録画授業なので、わからないことがあればteams上でいつでも質問してください。									

授 業 概 要

科目名	リハビリテーション概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	濱畑法生		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
リハビリテーションは、複数の制度によるサービス体系によって構成され、多様な専門職による複数の療法や訓練で提供されるため、複雑な過程となっている。ここでは、それらの一連の流れを整理して理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士免許を取得して35年経験があり、その間臨床現場で15年、大学教員として16年、専門学校で2年の教育研究歴を持つ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
入門リハビリテーション概論第7補訂版					30分程度の復習を要する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 リハビリテーションとは				9	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションについて、概要を理解する。					【到達目標】			
2	【授業単元】 病気と障害モデル				10	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションでは、医学モデルだけでなくそれ以外の障害モデルが存在する。対象者の状況に合わせてモデルを使い分けていく考え方が一般的であり、ここではその概念を学ぶ。					【到達目標】			
3	【授業単元】 リハビリテーションと心理				11	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションは、病気を対象にするのではなく、病気を持った人に対してアプローチする心身二元論に基づき身体運動だけでなく心理領域についても学ぶ必要がある。ここではその考えを理解する。					【到達目標】			
4	【授業単元】 リハビリテーションの諸段階				12	【授業単元】 技術である。			
	【到達目標】 リハビリテーションは、発症から入院、退院、その後の在宅生活のフォローを行う。その段階に応じた知識を理解する。					【到達目標】			
5	【授業単元】 リハビリテーションの過程				13	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションは、評価・計画・治療・再評価のPDCAサイクルに基づいて流れていく。その一連の流れを理解する。					【到達目標】			
6	【授業単元】 リハビリテーションを支える社会保障制度①				14	【授業単元】			
	【到達目標】 保健医療制度、社会保険制度について理解する。					【到達目標】			
7	【授業単元】 リハビリテーションを支える社会保障制度②				15	【授業単元】			
	【到達目標】 社会福祉と公的扶助、介護保険制度について理解する。					【到達目標】			
8	【授業単元】 まとめ、試験				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験またはTeamsを利用して行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	職業リハビリテーション		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員		
学科 コース	作業療法士科夜間部		学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数 15 時間
【授業を通じての到達目標】									
ICFにおける「生産活動」及び就労、仕事などに関わる概念を理解することで、就労支援と生活支援の意味を理解し、実際の地域活動に参加できる能力を身につける。心理社会的発達における生産性と世代性、キャリア形成論などを理解し、人にとって職業及び働くことの意味について様々な観点から理解を深める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
就労支援までの作業療法 基礎から臨床実践まで 必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					授業内で提示した課題への取り組みを積極的に行いましょう。 就労支援について関心を持ち、自ら積極的に情報収集をしていきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 就労支援の歴史について				9	【授業単元】			
	【到達目標】 就労支援の歴史と現状について理解できる					【到達目標】			
2	【授業単元】 就労支援の基礎概念について				10	【授業単元】			
	【到達目標】 働くことの意味について理解し自身の考えを持つことができる 作業療法と就労視線の関わりについて理解できる					【到達目標】			
3	【授業単元】 就労支援の実践について				11	【授業単元】			
	【到達目標】 就労支援を行う際の流れや必要な評価について理解できる					【到達目標】			
4	【授業単元】 身体障害領域での就労支援について				12	【授業単元】			
	【到達目標】 身体障害領域での終了支援において必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
5	【授業単元】 精神障害領域での就労支援について				13	【授業単元】			
	【到達目標】 精神障害領域での終了支援において必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
6	【授業単元】 知的・発達障害領域での就労支援について				14	【授業単元】			
	【到達目標】 知的・発達障害領域での終了支援において必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
7	【授業単元】 司法・地域での就労支援について				15	【授業単元】			
	【到達目標】 司法・地域における就労支援に必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
8	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 小テスト・定期テストの点数合計時、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来作業療法士となるという自覚を持ち、作業療法への理解を深め、自身の目標とする作業療法士像をかたちづくっていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	社会福祉概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	細田 明		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉の基本理念、その運動と歴史を学ぶことにより、多様な人々の生活と社会の力動性を理解した上で対象者に関与できる能力を身につける。社会保障論、障害者福祉論、社会福祉法制の基盤と社会福祉の機構について理解する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
老年期作業療法を中心に病院・クリニック・通所リハ・老人ホーム等実績の臨床18年目の当校夜間課程卒業生である教員が、臨床に於ける社会福祉の価値や倫理を学び、対人援助職に大切な視点を学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コメディカルのための社会福祉概論／講談社 適宜書籍を紹介する									
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 社会福祉とは 日本の社会福祉の歴史			9	【授業単元】				
	【到達目標】 社会福祉という用語は多義的な意味合いを含む言葉が多くなっている。また類似の用語も使用されているようになってきている。まずこれらの言葉を整理していく。我が国の、それぞれの時代に於ける社会福祉の背景や動向を理解する。				【到達目標】				
2	【授業単元】 社会制度と社会制度を展開する組織・子供福祉 小テスト			10	【授業単元】				
	【到達目標】 社会保障制度の体系・社会保険・公的扶助・社会福祉を展開する組織について理解する。子供を取り巻く社会状況、施策について理解する。				【到達目標】				
3	【授業単元】 障害者福祉 小テスト			11	【授業単元】				
	【到達目標】 障害者福祉の理念や基本的な考え方を学ぶ。				【到達目標】				
4	【授業単元】 高齢者福祉 小テスト			12	【授業単元】				
	【到達目標】 高齢者の現状と高齢者を支援する制度・政策を概観し、その在り方を理解する。				【到達目標】				
5	【授業単元】 介護保険制度と専門職の役割 小テスト			13	【授業単元】				
	【到達目標】 介護保険制度について理解し、サービス提供を担う専門職について学ぶ				【到達目標】				
6	【授業単元】 地域福祉とその推進方法 小テスト			14	【授業単元】				
	【到達目標】 地域そのものを基盤とした新しい福祉の形態について理解する。				【到達目標】				
7	【授業単元】 医療福祉 小テスト			15	【授業単元】				
	【到達目標】 日本の社会保障制度の一つとして、医療保険制度が位置付けられている。この概要について理解する。				【到達目標】				
8	【授業単元】 精神保健福祉 テスト			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 小テスト： 6コマ = 40点 テスト： = 60点					
	【到達目標】 精神障害者の定義と取り巻く状況・法制度について学ぶ。								
【履修に当たっての心構え・留意点】				(計 100点満点)					

授 業 概 要

科目名	基礎作業学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業の概念を理解することで、作業療法が作業に基づく実践であることを多角的に説明する能力を身につける。作業の定義、作業の目的別区分(生産活動、遊び、セルフケア)について理解する。作業・活動分析の目的と形式を理解する。「作業科学」の基礎を学び、人文的に作業の意味を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として16年目となり、おもに精神科病院にて勤務。教員経験は常勤・非常勤として9年目となる。本授業では、作業療法士として理解しておくべき「作業とは何か」について、深く掘り下げ、楽しく伝える。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:作業学 改訂第3版(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)、メジカルビュー社、2021 その他必要に応じて授業内で紹介					授業の中で出てくる様々な問いに対して、自分なりに考えたり、答えを出してみよう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 作業の力 【到達目標】 作業が有する力を説明できる。				9	【授業単元】 シリーズ<3> 作業療法に迫る その② キーワード: 作業療法の実践モデル 【到達目標】 作業療法の実践モデル(MOHO,精神分析,CBT)について説明できる。			
	【授業単元】 シリーズ<1> 作業が持つ意味 その① キーワード:感情、目的と手段 など 【到達目標】 作業によって引き起こされる感情や、作業が有する目的性と手段性が説明できる。					【授業単元】 シリーズ<3> 作業療法に迫る その③ キーワード: 作業療法の実践モデル 【到達目標】 作業療法の実践モデル(感覚統合、COMOP、MTDLP)について説明できる。			
2	【授業単元】 シリーズ<1> 作業が持つ意味 その② キーワード:アイデンティティ、生活 など 【到達目標】 自己の象徴としての作業を説明できる。				11	【授業単元】 作業の未来について語ろう キーワード: 健康、幸福、理想 など 【到達目標】 作業の未来について説明できる。			
	【授業単元】 シリーズ<1> 作業が持つ意味 その③ キーワード:社会的意味、仕事と遊び など 【到達目標】 作業が有する社会的意味について説明できる。					【授業単元】 シリーズ<4> 仕事という作業に向き合う その① キーワード: キャリア、主体性 など 【到達目標】 仕事(キャリア、主体性)について説明できる。			
3	【授業単元】 シリーズ<2> 作業に関して知っていると思えることとその① キーワード:段階論、作業的存在 など 【到達目標】 作業と生活の構造化との関係を説明できる。				13	【授業単元】 シリーズ<4> 仕事という作業に向き合う その② キーワード: 能力、働く意味 など 【到達目標】 仕事(能力、働く意味)について説明できる。			
	【授業単元】 シリーズ<2> 作業に関して知っていると思えることとその② キーワード:トランザクション、健康 など 【到達目標】 作業と個人の健康との関連性を説明できる。					【授業単元】 シリーズ<4> 仕事という作業に向き合う その③ キーワード: 会社、メンタルヘルス など 【到達目標】 仕事(会社、メンタルヘルス)について説明できる。			
4	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 作業について、ここまでの授業を振り返り、授業内容から興味を持ったことや考えたことを伝えることができる。				15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 授業全体を振り返り、自分自身の考えを述べるができる。 授業全体の評価合計として、60点以上を獲得する。			
	【授業単元】 シリーズ<3> 作業療法に迫る① キーワード: 作業療法の発展と応用 など 【到達目標】 作業療法の歴史的な流れや定義について説明できる。					【成績評価の方法と基準】 当科目全体を100点満点とし、最終的にA~Fの6段階で評価する。 100点の内訳は、 ①第1回授業小テスト …………… 4点満点 ②第2回~第14回(第7回を除く)… 3点満点×12回 =計36点満点 ③中テスト(第7回に実施)…………… 20点満点 ④定期テスト(第15回に実施)……… 40点満点			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
概念(イメージ)的な内容が多いので、自分自身と重ねたりしながら「イメージ」できると興味を持って受講できると思います。					以上①~④で合計100点満点。 ※テスト関連は全て資料等持ち込み可。				

授 業 概 要

科目名	作業療法理論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小林 大作		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法の『作業』が何かについて理解を深め、他者に説明することができる。 作業療法の理解と作業療法士になるための基本的な知識を修得することができる。 作業療法を実践する上での理論的枠組みを理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害領域の総合病院に勤務後、大学病院併設の訪問看護ステーション、民間の訪問看護ステーションでの訪問作業療法に従事し、現在は社会保障外で障害のある方、お子さん、高齢者に対してアシスティブ・テクノロジーを活用した生活支援を提供している。また、地域で暮らす方の生活の成り立ちを捉えるために、エスノグラフィーを用いて研究し、修士課程を修了している。人の営み全てを指す『作業』の意味、そこに関わる作業療法士の醍醐味を教授いたします。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
作業療法学概論 第4版 医学書院 参考図書は講義中に適時紹介					授業内で提示した課題への取り組み。 作業療法について関心を持ち、自ら積極的に情報収集をしていきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/10	【授業単元】 作業療法の「作業」とは何か(p3-14)				9 5/29	【授業単元】 作業療法の仕組み①(p145-166)			
	【到達目標】 作業療法の「作業」の定義を理解できる。 作業療法の「作業」が包含する内容を理解できる。 リハビリテーションにおける作業療法の関係性および位置づけを理解できる。					【到達目標】 対象者へ作業療法を提供する仕組みを理解することができる。			
2 4/17	【授業単元】 作業療法の歴史と原理(p15-26)				10 6/5	【授業単元】 作業療法の仕組み②(p145-166)			
	【到達目標】 作業療法の歴史的背景を理解することができる。 時代による作業療法の変化と変わらない物を学び、作業療法の本質を知る。					【到達目標】 対象者へ作業療法を提供する仕組みを理解することができる。			
3 4/24	【授業単元】 作業療法に関連する知識(p27-39)				11 6/12	【授業単元】 領域別に展開されている作業療法の実践①(p160-227)			
	【到達目標】 作業療法を構成する関連領域の知識を知ることができる。 作業を構成する多様な知識を知ることができる。					【到達目標】 各領域で展開されている作業療法について概要を理解することができる。			
4 4/27	【授業単元】 作業療法の領域(p40-48)				12 6/19	【授業単元】 領域別に展開されている作業療法の実践②(p160-227)			
	【到達目標】 作業療法の領域と実践場所について、その特徴に気づき説明することができる。 作業療法士が働く現場について具体的なイメージをもつことができる。					【到達目標】 各領域で展開されている作業療法について概要を理解することができる。			
5 5/1	【授業単元】 作業の分析と治療への適応①(p51-79)				13 6/26	【授業単元】 領域別に展開されている作業療法の実践③(p160-227)			
	【到達目標】 対象者の作業をどのように捉え、どのように支援していかの概要を理解できる。					【到達目標】 各領域で展開されている作業療法について概要を理解することができる。			
6 5/8	【授業単元】 作業の分析と治療への適応①(p51-79)				14 7/10	【授業単元】 社会保障における作業療法と今後との可能性			
	【到達目標】 作業療法の理論的背景を理解することができる。 作業療法の理論における階層性の概要を理解できる。					【到達目標】 法的枠組みの中での作業療法について概要を理解できる。 今後の作業療法の可能性を知ることができる。 新しい作業療法の可能性を知ることができる。			
7 5/15	【授業単元】 作業療法士に求められる資質と倫理				15 6/24	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト			
	【到達目標】 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適性について理解することができる。 学んだことを活かして行動できるようにする。					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8 5/22	【授業単元】 作業療法士の教育およびエビデンスの構築(p97-118)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。筆記試験は教科書等の持ち込みを可能とする。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 作業療法士のキャリアパスの概要について理解することができる。 作業療法のエビデンスの状況及び必要性を理解することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来作業療法士になるという自覚を持ち、理解を深めましょう。わからない部分は積極的に質問してください。講義中は、受講者全員に質問し、議論しながら進めていきます。									

授 業 概 要

科目名	集中講座(基礎作業学実習)		必修 選択の別	必修	開講 区分	前期・後期集中	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科夜間部		学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	2 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】										
作業療法の治療手段であり目的でもある作業活動を行うことを通じて、その基礎的な知識と技術を習得する。作業活動の実際において協働や参加の意義を感じし表現する。作業・活動分析を実際に行うことができる。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
講師は、作業療法士として16年目となり、おもに精神科病院にて勤務。教員経験は常勤・非常勤として9年目となる。本授業では、作業療法士として理解しておくべき「作業」を、個々の学生が実際に体験できるようサポートする。本科目では、臨床現場でも活用できる制作活動と身体運動をバランスよく取り入れる。										
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】				
とくになし。必要に応じて授業内で資料や教材を配布する。						授業で取り組んだことをノートにまとめ、自分用の資料をつくる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1,2,3,4	【授業単元】 オリエンテーション、コミュニケーションゲーム、陶芸				33,34,35,36	【授業単元】 制作(アラカルト)、演技				
	【到達目標】 この科目の全体象を理解する。仲間意識を高め、協力的に実施できる態勢をつくる。 陶芸作品(成形)を1点完成させる。					【到達目標】 制作物を1点完成させる。 人前に立って演じる経験をする。				
5,6,7,8	【授業単元】 身体運動・表現、制作(アラカルト)				37,38	【授業単元】 発表準備				
	【到達目標】 運動することにより自身の心身に起こる変化を体感し、言語化できる。 制作物を1点完成させる。					【到達目標】 レクリエーション等を準備をする。				
9,10,11,12	【授業単元】 木工、レクリエーション				39,40,41,42	【授業単元】 発表準備、発表				
	【到達目標】 木工作品を1点完成させる。 レクリエーションを体験する。起案書について学ぶ。					【到達目標】 レクリエーション等を準備し、運営する。				
13,14,15,16	【授業単元】 ジャグリング、手品、革細工				43,44,45	【授業単元】 身体運動・表現、特別講義				
	【到達目標】 新たな特技を経験する・身につける。 革細工の作品を1点完成させる。					【到達目標】 運動することにより自身の心身に起こる変化を体感し、言語化できる。 これまでの集大成として、科目をふりかえることが出来る。				
17,18,19,20	【授業単元】 身体運動・表現、制作(アラカルト)				—	【授業単元】				
	【到達目標】 運動することにより自身の心身に起こる変化を体感し、言語化できる。 制作物を1点完成させる。					【到達目標】				
21,22,23,24	【授業単元】 ジャグリング、手品、園芸				—	【授業単元】				
	【到達目標】 新たな特技を経験する・身につける。 園芸の作品を1点完成させる。					【到達目標】				
25,26,27,28	【授業単元】 七宝焼き、レクリエーション、制作(工作)				—	【授業単元】				
	【到達目標】 七宝焼きや工作の作品を1点完成させる。 レクリエーションに取り組み、臨床現場で実践する知識を身につける。					【到達目標】				
29,30,31,32	【授業単元】 身体運動・表現、制作(手芸)				【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 運動することにより自身の心身に起こる変化を体感し、言語化できる。 制作物を1点完成させる。				科目全体を100点満点とし、AからFの6段階で評価を行う。 100点の内訳は、 出席点：2点×45コマ＝90点 課題提出：10点 以上で計100点					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
得意・苦手はあると思いますが、いずれにせよ積極的に楽しめるよう、自分自身をあるいは仲間同士で励まし合ひましょう。										

授 業 概 要

科目名	身体運動系評価学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体運動系の基礎的な評価技法を習得できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期リハビリテーション病院、訪問リハビリテーションにて勤務し、身体障害領域の小児から高齢者まで幅広く臨床経験があります。この授業では、身体運動系の作業療法評価について講義と実技練習を通して習得していきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書は適宜紹介する					授業内容の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 作業療法評価とは				9	【授業単元】 形態計測1			
	【到達目標】 授業の進め方を理解できる。 作業療法評価の意義について説明できる。					【到達目標】 形態計測を説明、実施できる。			
2	【授業単元】 作業療法評価の流れ				10	【授業単元】 形態計測2			
	【到達目標】 作業療法評価の流れについて説明できる。					【到達目標】 形態計測を説明、実施できる。			
3	【授業単元】 作業療法評価の記録				11	【授業単元】 反射検査			
	【到達目標】 作業療法評価での記録の方法を説明できる。					【到達目標】 反射検査を説明、実施できる。			
4	【授業単元】 対象者への説明				12	【授業単元】 関節可動域測定1			
	【到達目標】 対象者への説明ができる。					【到達目標】 上肢の関節可動域測定を説明、実施できる。			
5	【授業単元】 意識の評価				13	【授業単元】 関節可動域測定2			
	【到達目標】 意識状態の評価を説明、実施できる。					【到達目標】 上肢の関節可動域測定を説明、実施できる。			
6	【授業単元】 バイタルサインの測定1				14	【授業単元】 関節可動域測定3			
	【到達目標】 バイタルサインの測定を説明、実施できる。					【到達目標】 上肢の関節可動域測定を説明、実施できる。			
7	【授業単元】 バイタルサインの測定2				15	【授業単元】 定期テスト(実技試験) 総まとめ			
	【到達目標】 バイタルサインの測定を説明、実施できる。					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト(実技試験)				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は実技試験もしくは筆記試験にて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実技を身につけられるように積極的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	精神心理学評価学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	水野 高昌		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本科目は、認知・心理・社会・家族といった項目の評価について概論から各種技法までの理解と修得を目的とする。評価の目的といった概論とスクーリング検査のような簡便な評価項目を学び、他者に説明し実施することを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神病院の精神科作業療法(3年間)、精神科診療所のデイケア・ナイトケア(16年間)の実務経験と、大学教員として16年の教員経験を有し、また、精神障害者向けのグループホーム(共同生活援助事業)の理事長としての(12年間)運営経験と、博士課程において「グループホームにおける作業療法」の研究テーマを開始し、現在、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)の交付を受け研究を継続している。これらの経験をもとに、精神障害領域の臨床実習や臨床勤務を念頭においた、事例検討を中心にPBL(問題解決型授業)を取り入れた演習授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①「作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版」メジカルビュー社 ②「精神科作業療法の理論と技術」メジカルビュー社 ③「精神障害と作業療法 新版」三輪書店					レポート課題含め、授業単元に応じた予習と復習が必要です				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価④			
9/13 (水) 6限	【到達目標】 演習の内容、臨む態度、レポート作成と提出についての説明できる 作業療法の評価の目的とプロセスを説明できる。				11/22 (水) 6限	【到達目標】 評価における「作業面接」について説明できる。 小テスト⑧ (10点)			
2	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価①				10	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価④			
9/20 (水) 6限	【到達目標】 評価データの入手方法を説明できる。 小テスト① (10点)				11/29 (水) 6限	【到達目標】 評価における「作業面接」について実施できる。 小テスト⑨ (10点)			
3	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価②				11	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑤			
9/27 (水) 6限	【到達目標】 評価における「面接」について説明できる。 小テスト② (10点)				1/17 (水) 6限	【到達目標】 評価における「各種検査」について説明できる。 評価における「各種検査」について実施できる。 小テスト⑩ (10点)			
4	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価②				12	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑥			
10/4 (水) 6限	【到達目標】 評価における「面接」について実施できる。 小テスト③ (10点×2)				1/24 (水) 6限	【到達目標】 評価における「各種検査」について実施できる。 小テスト⑪ (10点)			
5	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価③				13	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑦			
10/11 (水) 6限	【到達目標】 評価における「観察」について説明できる。 小テスト④ (10点)				1/31 (水) 6限	【到達目標】 評価における臨床思考過程、つまりは「問題点と利点の抽出」や「統合と解釈(評価のまとめ、全体像)」、そして「目標設定(短期・長期・リハ目標の階層性、問題点との関連性の明示)」「プログラムの治療構造」「プログラム立案(短期目標との関連性の明示)」について説明できる。 小テスト⑫ (10点)			
6	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価③				14	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑧			
10/18 (水) 6限	【到達目標】 評価における「観察」について実施できる。 小テスト⑤ (10点)				2/7 (水) 6限	【到達目標】 国家試験で出題される「臨床心理学」「精神障害評価学」に関する過去問の解説について説明できる 小テスト⑬ (10点)			
7	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価③				15	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑧			
10/25 (水) 6限	【到達目標】 評価における「観察」について説明できる。 小テスト⑥ (10点)				2/14 (水) 6限	【到達目標】 前半:定期テスト(60点) 後半:評価における「各種検査」について実施できる。			
8	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価③				【成績評価の方法と基準】 小テスト(10点×13回=130点:50%) 定期テスト(60点×1回=60点:50%) これらを合わせて科目の評定(100%)とする。				
11/1 (水) 6限	【到達目標】 評価における「観察」について実施できる。 小テスト⑦ (10点)								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
臨床実習・臨床現場を想定した授業構成となっています。自主性に基づいた能動的な学習を求めます。今まで蓄積した学習成果物(ノートやレポート、ポートフォリオ等)や教科書、参考書を活用し、必要に応じて、自ら資料や情報を収集し授業準備に臨んでください。									

授 業 概 要

科目名	日常生活活動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
日常生活活動の概念と範囲、評価を学ぶ。また、作業療法で対象となる主な疾患における障害の概要を理解し必要なADL評価やそれらに対する支援の方法を学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料、指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 日常生活活動の概念と範囲、評価、支援システム				9	【授業単元】 下肢切断			
	【到達目標】 必要なADL評価、支援システムが説明できる					【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる			
2	【授業単元】 脳卒中(片麻痺)				10	【授業単元】 進行性筋ジストロフィー			
	【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる					【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる			
3	【授業単元】 脊髄小脳変性症				11	【授業単元】 脳性麻痺			
	【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる					【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる			
4	【授業単元】 筋萎縮性側索硬化症(ALS)				12	【授業単元】 パーキンソン病			
	【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる					【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる			
5	【授業単元】 頸髄損傷				13	【授業単元】 高次脳機能障害			
	【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる					【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる			
6	【授業単元】 胸髄損傷				14	【授業単元】 高次脳機能障害②			
	【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる					【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる			
7	【授業単元】 関節リウマチ				15 16	【授業単元】 認知症、まとめ 定期試験			
	【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる					【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる			
8	【授業単元】 上肢切断				【成績評価の方法と基準】 ○科目の評価は、定期試験60%、授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 ○試験はteams上で行う(詳細は授業動画内、teams上でアナウンスを行う)。 ○授業の小テストは合計65点、中テスト(おおよそ半分の授業回数で実施予定)は15点満点とする(合計80点)。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 障害の概要を理解する 指導と介護の方法について説明できる 住環境の整備について説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
録画授業なので、わからないことがあればteams上でいつでも質問してください。									

授 業 概 要

科目名	地域作業療法学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中直幸・他9名				
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における作業療法をとりまく医療・福祉の理念、サービス体系、推進方法などを説明出来るようになる。 ・地域作業療法実習の意義について理解する。 											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が5年以上の教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえ、地域における作業療法について授業を展開する。担当教員：田中直幸・佐藤祐子・小泉雄一・中村勇貴・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・泉良太・濱畑法生・石井茉弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
地域作業療法実習要項 各教科書						地域で行われている作業療法について、通所と訪問を中心に事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
<p>地域における作業療法の実際について、資料収集をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに体験した実習の中から、実習分野（利用者理解含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・リスク管理（ITリテラシー・感染管理）についての理解 ・手洗い・手袋・マスクの着用の仕方 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む） ・「日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解と行った記録についての確認 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前後の試験結果を踏まえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中直幸・他9名				
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	45	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床（評価）実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを把握する事が出来るようになる。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：田中直幸・佐藤祐子・小泉雄一・中村勇貴・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・泉良太・濱畑法生・石井茉莉											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅰ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p>以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など） 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	臨床実習概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中直幸・他9名				
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1	単位	総時間数	45	時間
【授業を通じての到達目標】											
・3年間で行われる臨床実習について方法や手段を理解し、実習生として望まれる態度や知識について実際に行動して学習する。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が5年以上の教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえ、地域における作業療法について授業を展開する。担当教員：田中直幸・佐藤祐子・小泉雄一・中村勇貴・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・泉良太・濱畑法生・石井茉弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅰ実習要項 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
臨床実習Ⅰ開始前に下記の内容にて実施する											
<ul style="list-style-type: none"> ・実習を行う実習分野（利用者理解含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・リスク管理（ITリテラシー・感染管理）についての理解 ・手洗い・手袋・マスクの着用の仕方 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む） ・「日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解・見学実習、評価実習、総合実習の区分と目的について ・見学実習においての見学・観察について 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						授業前後の試験結果を踏まえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習 I	必修選択の別	必修	開講区分	集中	担当教員	菅原 匡宏		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
解剖学・生理学の基礎の復習を行いながら、国家試験合格に向け1年生から基礎を固めていく。 問題を解き、グループワークでアウトプットを行い理解を深めていく。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲基礎となる解剖・生理学の復習を中心に授業を実施していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院					授業の内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 作業療法総合学習 I の目的について理解する				9	【授業単元】 生理学② 循環について 【到達目標】 循環について理解する 問題を解き理解を深める			
2	【授業単元】 解剖学① 骨について 【到達目標】 骨について理解する 問題を解き理解を深める				10	【授業単元】 生理学② 呼吸について 【到達目標】 呼吸について理解する 問題を解き理解を深める			
3	【授業単元】 解剖学② 骨について 【到達目標】 骨について理解する 問題を解き理解を深める				11	【授業単元】 生理学③ 消化について 【到達目標】 消化について理解する 問題を解き理解を深める			
4	【授業単元】 解剖学③ 骨について・筋肉について 【到達目標】 骨・筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				12	【授業単元】 授業の総まとめ① 【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める			
5	【授業単元】 解剖学④ 筋肉について 【到達目標】 身体の構造うあ筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				13	【授業単元】 授業の総まとめ② 【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める			
6	【授業単元】 解剖学⑤ 筋肉について 【到達目標】 筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				14	【授業単元】 定期テスト対策 【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める			
7	【授業単元】 まとめ 中テスト対策 【到達目標】 骨・筋肉についてまとめを行い理解を深める				15	【授業単元】 定期テスト 授業の振り返り 【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 中テスト 生理学① 【到達目標】 骨・筋肉について中テスト 血液について問題を解き理解を深める				【成績評価の方法と基準】				
					講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
					・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験に直結する科目です。受講時にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやっていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	中村 勇貴		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
内臓系～感覚器における範囲の作業療法国家試験過程(解剖・生理学)の要点8割以上を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲基礎となる解剖・生理学の要点8割以上理解を目的に授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Qシリーズ 新解剖学(第7版)、Qシリーズ 新生理学(第7版)					授業の内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 2. 内臓系① 【到達目標】 内臓系(口腔、咽頭、食道、胃)について、その概要・要点を理解・説明できる。				9	【授業単元】 3. 脈管系③ 【到達目標】 脈管系(心臓・動脈・静脈)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
2	【授業単元】 2. 内臓系② 【到達目標】 内臓系(小腸、大腸、肝臓、膵臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。				10	【授業単元】 3. 脈管系④ 【到達目標】 脈管系(動脈・静脈・リンパ)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
3	【授業単元】 2. 内臓系③ 【到達目標】 内臓系(気道、鼻腔、喉頭、気管)について、その概要・要点を理解・説明できる。				11	【授業単元】 3. 脈管系⑤(まとめ) 【到達目標】 今まで実施してきた脈管系の総まとめの理解・説明ができる。			
4	【授業単元】 2. 内臓系④ 【到達目標】 内臓系(肺・腎臓・膀胱)について、その概要・要点を理解・説明できる。				12	【授業単元】 5. 感覚系① 【到達目標】 感覚系(視覚)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	【授業単元】 2. 内臓系⑤ 【到達目標】 内臓系(精巣・卵巣・尿道・性器)について、その概要・要点を理解・説明できる。				13	【授業単元】 5. 感覚系② 【到達目標】 感覚系(聴覚)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
6	【授業単元】 2. 内臓系⑥(まとめ) 【到達目標】 今まで実施してきた内臓系の総まとめの理解・説明ができる。				14	【授業単元】 総まとめ 【到達目標】 今まで実施してきた感覚系の総まとめの概要・要点を理解・説明できる。			
7	【授業単元】 3. 脈管系① 【到達目標】 脈管系(心臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	【授業単元】 定期テストと授業の振り返り 【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 中テスト(内臓系) 3. 脈管系② 【到達目標】 脈管系(心臓・動脈)について、その概要・要点を理解・説明できる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験に直結する科目です。受講時にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやってみましょう。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	中村 勇貴		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
呼吸、循環、消化、吸収と代謝、内分泌の作業療法国家試験過程(解剖・生理学)の要点8割以上を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲基礎となる解剖・生理学の要点8割以上理解を目的に授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Qシリーズ 新生理学(第7版)、Qシリーズ 新解剖学(第7版)、					授業の内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用① 【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。				9	【授業単元】 11. 消化・吸収と代謝① 【到達目標】 消化・吸収と代謝(機能)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
2	【授業単元】 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用② 【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。				10	【授業単元】 11. 消化・吸収と代謝② 13. 内分泌① 【到達目標】 消化・吸収と代謝(内分泌)について、その概要・要点を理解・説明できる。 内分泌(ホルモン)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
3	【授業単元】 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用③ 【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。				11	【授業単元】 国家試験問題① 【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
4	【授業単元】 8. 呼吸① 【到達目標】 呼吸について、その概要・要点を理解・説明できる。				12	【授業単元】 国家試験問題② 【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
5	【授業単元】 8. 呼吸② 【到達目標】 呼吸について、その概要・要点を理解・説明できる。				13	【授業単元】 国家試験問題③ 【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
6	【授業単元】 9. 循環① 【到達目標】 循環について、その概要・要点を理解・説明できる。				14	【授業単元】 国家試験問題④ 【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
7	【授業単元】 9. 循環② 【到達目標】 循環について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	【授業単元】 定期テストと授業の振り返り 【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 中テスト(呼吸・循環) 10. 腎臓 【到達目標】 腎臓について、その概要・要点を理解・説明できる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験に直結する科目です。受講にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやっていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	小児科学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	戸川 鎮男		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
小児に関わる疾患についてその概要を知る。 小児に関わる疾患について整理ができる。									
【学習内容】									
急性期と発達障害領域で臨床経験を積んできた教員が、小児に関わる疾患の基礎知識を習得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野) 小児科学 第5版					主に復習に重点をおいて下さい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 概論 新生児・未熟児疾患について 【到達目標】 小児科学の内容を理解できる 新生児・未熟児疾患についての概要を理解できる 先天異常と遺伝病についての概要を理解できる				9	【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 先天異常と遺伝病について 神経・筋・骨系疾患について 【到達目標】 先天異常と遺伝病についての概要を理解できる 神経・筋・骨系疾患についての概要を理解できる				10	【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 循環器疾患について 呼吸器疾患について 【到達目標】 循環器疾患についての概要を理解できる 呼吸器疾患についての概要を理解できる				11	【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 感染症について 消化器疾患につて 内分泌疾患について 【到達目標】 感染症についての概要を理解できる 消化器疾患についての概要を理解できる 内分泌疾患についての概要を理解できる				12	【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 血液疾患について 免疫・アレルギー疾患、膠原病について 腎・泌尿器系、生殖器疾患について 【到達目標】 血液疾患についての概要を理解できる 免疫・アレルギー疾患、膠原病についての概要を理解できる 腎・泌尿器系、生殖器疾患についての概要を理解できる				13	【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 腫瘍性疾患について 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待について 眼科・耳鼻科的疾患について 【到達目標】 腫瘍性疾患についての概要を理解できる 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待についての概要を理解できる 眼科・耳鼻科的疾患についての概要を理解できる				14	【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 重症心身障がい児について 【到達目標】 重症心身障がい児についての概要を理解できる				15	【授業単元】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 授業内容の総復習として行います				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価します。 ・試験は筆記試験です。 ・毎回小テストは各回5～6点満点として、その合計を小テストの合計点とします。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書を中心にすすめます。生理学・解剖学の内容にも重点を置き、疾患の理解をしていきたいと思えます。復習に重点を置いてください。 分からない事は聞いて下さい。									

授 業 概 要

科目名	整形外科学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
疾病や外傷に起因する運動器障害の疾病を理解するとともに、これらの疾病から派生する障害について説明できるようになる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として週1回精神科病院、発達児童の放課後等デイサービスにて約2年経験。身体障害領域における作業療法プログラムについて講義または演習を通して学生が理解、実践でき、また国家試験に合格する為の知識を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版					授業で学んだ内容を整理し、繰り返し学習を行い、知識を定着させましょう				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/3 (月)	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖学の復習①				9 6/5 (月)	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖学の復習③			
	【到達目標】 骨、関節、神経、筋などの解剖学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる。					【到達目標】 内臓器に関わる解剖学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる。			
2 4/10 (月)	【授業単元】 外傷性疾患 骨折について①				10 6/12 (月)	【授業単元】 循環器障害と壊死性疾患について			
	【到達目標】 骨折の分類と上肢骨折についての理解することができる					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
3 4/17 (月)	【授業単元】 外傷性疾患 骨折について②				11 6/19 (月)	【授業単元】 代謝・内分泌疾患・退行性疾患について			
	【到達目標】 上肢骨折・下肢骨折についての理解することができる					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
4 4/24 (月)	【授業単元】 外傷性疾患 末梢神経・腱・靭帯について				12 6/26 (月)	【授業単元】 炎症性疾患について			
	【到達目標】 末梢神経・腱・靭帯の障害について理解することができる					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
5 5/1 (月)	【授業単元】 神経・筋疾患について				13 7/3 (月)	【授業単元】 熱傷について 切断および離断について			
	【到達目標】 神経・筋疾患の病態や特徴について理解することができる					【到達目標】 熱傷や切断の理解を深める			
6 5/8 (月)	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖学の復習②				14 7/10 (月)	【授業単元】 整形外科の評価および検査法 治療法とリハビリテーションについて			
	【到達目標】 脊椎を中心とした解剖学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる。					【到達目標】 姿勢や歩行、運動器の評価についてと 整形外科治療の目的とリハビリテーションについて理解することができる			
7 5/15 (月)	【授業単元】 脊髄損傷・脊椎疾患について				15 7/17 (月)	【授業単元】 振り返りと定期試験および試験解答解説			
	【到達目標】 疾患と損傷レベルによる症状について理解することができる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8 5/29 (月)	【授業単元】 振り返りと中間テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 自身の理解度、習得度を把握することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
整形外科学を通じて、解剖学や運動学などの知識とつなげ、臨床現場や国家試験で活かせる学びとしましょう									

授 業 概 要

科目名	神経内科	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
神経内科(外科)疾患の内容を解剖生理学や作業療法専門科目と関連付けながら学び、理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
急性期・回復期病院にて主に脳卒中の作業療法に15年以上従事した教員が、作業療法対象疾患となる神経内科学全般を講義する。主に疾患を中心に講義を進め、疾患に応じて症候学や中枢神経系の基礎医学の内容を盛り込む。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 (PT/OT国家試験必修ポイント基礎医学・臨床医学)					復習。おすすめ教材「病気がみえる”脳・神経”」(メジカルビュー)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 脳血管障害①(P173-202)				9	【授業単元】 末梢神経障害(P275-283)			
	【到達目標】 脳血管障害の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。					【到達目標】 末梢神経障害の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。			
2	【授業単元】 脳血管障害②(P173-202)				10	【授業単元】 筋疾患(P288-300)			
	【到達目標】 脳血管障害の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。					【到達目標】 筋疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。			
3	【授業単元】 外傷性脳損傷(P231-237) 脳腫瘍(P224-230)				11	【授業単元】 感染性疾患(P302-309)			
	【到達目標】 外傷性脳損傷、脳腫瘍の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。					【到達目標】 感染性疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。			
4	【授業単元】 認知症(P204-222)				12	【授業単元】 中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患(P311-315)			
	【到達目標】 認知症の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。					【到達目標】 中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。			
5	【授業単元】 変性脱髄疾患”髄体外路系を除く”、脱髄疾患(P253-261)				13	【授業単元】 小児神経疾患(P316-336)			
	【到達目標】 変性脱髄疾患”髄体外路系を除く”、脱髄疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。					【到達目標】 小児神経疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。			
6	【授業単元】 髄体外路の変性疾患(P262-283)				14	【授業単元】 神経疾患に多い合併症(P339-359)			
	【到達目標】 髄体外路の変性疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。					【到達目標】 神経疾患に多い合併症の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。			
7	【授業単元】 てんかん(P284-286)				15	【授業単元】 総復習 定期試験			
	【到達目標】 てんかんの病態を基礎医学に基づいて理解することができる。					【到達目標】 定期試験の合格			
8	【授業単元】 脊髄疾患(P238-251)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 脊髄疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進行上、教科書の目次が前後する場合がある。 P5-169は他科目で履修済みあるいはこれから触れる内容なため、この授業ではクローズアップしない。各自、参考資料として使用することを願う。									

授 業 概 要

科目名	一般臨床医学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	3 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】									
各疾患の病因、病態生理、症候、診断、栄養管理と薬理、画像診断、障害予防について学ぶ									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士が、臨床現場で必要となる臨床医学を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々な評価方法や作業療法への展開の仕方を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料 指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1,2	【授業単元】 循環器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			16	【授業単元】 神経・運動器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
3,4	【授業単元】 呼吸器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			17	【授業単元】 アレルギー疾患・膠原病・免疫病	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
5,6	【授業単元】 消化器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			18	【授業単元】 代謝・栄養障害	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
7,8	【授業単元】 肝・胆・膵疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			19	【授業単元】 感覚器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
9,10	【授業単元】 感染症	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			20	【授業単元】 中毒・染色体・遺伝子異常症	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
11,12	【授業単元】 血液・造血器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			21	【授業単元】 皮膚および胸壁の疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
13,14	【授業単元】 内分泌疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			22,23	【授業単元】 総復習、テスト	【到達目標】 これまでの講義の中で行った各疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防の確認		
	【到達目標】					【到達目標】			
15	【授業単元】 腎・尿路・生殖器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(おおよそ半分の授業週で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
録画授業ですのでわからないことがあればteams上でいつでも質問してください									

授 業 概 要

科目名	臨床心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理的な対人援助の方法と実際について理解することで、医療・福祉の現場で人を心理的に支援する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として16年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。私たち(対人援助職)が知っておくべき臨床心理学を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
リハビリテーションのための臨床心理学 牧瀬英幹著 南江堂 医療行動科学のためのカレント・トピックス 津田彰編集 北大路書店					授業内容の復習。 ・誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 この科目の進め方や、臨床心理学の全体像をつかむ。				9	【授業単元】 シリーズ<2>： 医療の行動科学⑤ 【到達目標】 社会の変化と家族の変容について、簡潔に説明できる。 その他の内容： 認知行動療法ステップ5 国家試験対策(後編)			
2	【授業単元】 シリーズ<1>： 対人関係について考えてみよう① 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード： セルフモニタリング、原因帰属、非言語的コミュニケーション など				10	【授業単元】 シリーズ<3>： さらに臨床心理学にせまる① 【到達目標】 ～心理アセスメントの方法と倫理～ 心理アセスメントの意義と方法、倫理について簡潔に説明できる。			
3	【授業単元】 シリーズ<1>： 対人関係について考えてみよう② 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード： 社会的ジレンマ、援助、集団 など				11	【授業単元】 シリーズ<3>： さらに臨床心理学にせまる② 【到達目標】 ～心理検査～ 心理検査の実施前後に考慮することや、心理検査の種類について簡潔に説明できる。			
4	【授業単元】 シリーズ<1>： 対人関係について考えてみよう③ 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード： リーダー、攻撃、流行、攻撃、犯罪心理 など				12	【授業単元】 シリーズ<3>： さらに臨床心理学にせまる③ 【到達目標】 ～無意識の欲望を探る精神分析/行動や認知の変容・制御を目指す～ 精神分析について簡潔に説明できる。 行動療法や認知行動療法について簡潔に説明できる。			
5	【授業単元】 シリーズ<2>： 医療の行動科学① 【到達目標】 障害受容、心理的安全性について、簡潔に説明できる。 その他の内容： 認知行動療法ステップ1				13	【授業単元】 シリーズ<3>： さらに臨床心理学にせまる④ 【到達目標】 ～人間の実現傾向を重視する/さまざまな心理療法的アプローチ～ クライアント中心療法について簡潔に説明できる。 家族療法、森田療法、交流分析について簡潔に説明できる。			
6	【授業単元】 シリーズ<2>： 医療の行動科学② 【到達目標】 医療者としての適性、防衛機制について、簡潔に説明できる。 その他の内容： 認知行動療法ステップ2				14	【授業単元】 シリーズ<3>： さらに臨床心理学にせまる⑤ 【到達目標】 ～発達と心の問題/認知機能のアセスメントと支援～ フロイト、エリクソン、ピアジェの理論について簡潔に説明できる。 記憶、注意、遂行機能について簡潔に説明できる。			
7	【授業単元】 シリーズ<2>： 医療の行動科学③ 【到達目標】 医療者の仕事とストレスについて、転移・逆転移について簡潔に説明できる。 その他の内容： 認知行動療法ステップ3				15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 計15回の総合計得点：60点以上			
8	【授業単元】 シリーズ<2>： 医療の行動科学④ 【到達目標】 心理的アプローチによる医療事故防止について簡潔に説明できる。 その他の内容： 認知行動療法ステップ4、 国家試験対策(前編)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。 ②小テスト(各回の合計)が40点満点。 ②の内訳は、 第1回授業 … 1点 第2～14回 … 3点 × 13回 = 39点 (以上 合計で40点) ①と②の合計で100点満点。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
本科目は「心理学」をさらに専門的にした内容です。「臨床」や「対人」といったキーワードが、内容の柱となっています。難しい言葉がたくさん出てくるかもしれませんが、様々な専門家が築いてきた知識を手に入れることができます。どうか楽しんで下さい。					※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テスト、小テストは資料持ち込み可。				

授 業 概 要

科目名	チーム医療論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	細田 明		
学科 コース	作業療法士科夜間課程	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士が、多様な生活と社会背景を持つ対象者に関与できる能力を身につけるために、必要たる複数の職種で関わり協働する多職種の役割について理解する。医療、自立支援、児童福祉、高齢者福祉等を包括する地域包括ケアシステムについてその要点を理解する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
老年期作業療法を中心に病院・クリニック・通所リハ・老人ホーム等実績の臨床18年目の当校夜間課程卒業生である教員が、臨床に於けるコミュニケーション及び多職種連携の価値や倫理を学び、対人援助職に大切な視点を学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コミュニケーション論・多職種連携論／医歯薬出版株式会社 適宜書籍を紹介する					地域包括ケアシステム理解を深めてください https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 コミュニケーションの基本的な考え方 【到達目標】 コミュニケーションの基本となる様々な側面について理解する				9	【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 コミュニケーションに必要とされる力 小テスト 【到達目標】 意思決定の支援・傾聴力・説得する力・人間関係を発展させる力について理解する。				10	【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 コミュニケーションの手法 小テスト 【到達目標】 質問・うなづき、あいづち・明確化・要約といった手法から対象者へのアプローチを学ぶ。				11	【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 多職種連携とチーム医療 小テスト 【到達目標】 保険医療福祉に於いて、患者や支援対象者のニーズや思いに応えるため、その在り方を理解する。				12	【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 チームアプローチに於ける課題と対応 小テスト 【到達目標】 多様性への対応・ファシリテーション・アサーション・コンフリクトマネジメントについて学ぶ。				13	【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 多職種連携の実践 小テスト 【到達目標】 事例から多職種連携の実践を学ぶ。				14	【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 多職種連携の実践 小テスト 【到達目標】 事例から多職種連携の実践を学ぶ。				15	【授業単元】 【到達目標】			
8	【授業単元】 多職種連携の実践 テスト 【到達目標】 事例から多職種連携の実践を学ぶ。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 小テスト： 6コマ = 40点 テスト： = 60点 (計 100点満点)				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	社会福祉論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	細田 明		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉の基本理念、その運動と歴史を学ぶことにより、多様な人々の生活と社会の力動性を理解した上で対象者に関与できる能力を身につける。社会保障論、障害者福祉論、社会福祉法制の基盤と社会福祉の機構について理解する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
老年期作業療法を中心に病院・クリニック・通所リハ・老人ホーム等実績の臨床18年目の当校夜間課程卒業生である教員が、臨床に於ける社会福祉の価値や倫理を学び、対人援助職に大切な視点を学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コメディカルのための社会福祉概論／講談社 適宜書籍を紹介する									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉とは 日本の社会福祉の歴史				9	【授業単元】			
	【到達目標】 社会福祉という用語は多義的な意味合いを含む言葉が多くなっている。また類似の用語も使用されているようになってきている。まずこれらの言葉を整理していく。我が国の、それぞれの時代に於ける社会福祉の背景や動向を理解する。					【到達目標】			
2	【授業単元】 社会制度と社会制度を展開する組織・子供福祉 小テスト				10	【授業単元】			
	【到達目標】 社会保障制度の体系・社会保険・公的扶助・社会福祉を展開する組織について理解する。子供を取り巻く社会状況、施策について理解する。					【到達目標】			
3	【授業単元】 障害者福祉 小テスト				11	【授業単元】			
	【到達目標】 障害者福祉の理念や基本的な考え方を学ぶ。					【到達目標】			
4	【授業単元】 高齢者福祉 小テスト				12	【授業単元】			
	【到達目標】 高齢者の現状と高齢者を支援する制度・政策を概観し、その在り方を理解する。					【到達目標】			
5	【授業単元】 介護保険制度と専門職の役割 小テスト				13	【授業単元】			
	【到達目標】 介護保険制度について理解し、サービス提供を担う専門職について学ぶ。					【到達目標】			
6	【授業単元】 地域福祉とその推進方法 小テスト				14	【授業単元】			
	【到達目標】 地域そのものを基盤とした新しい福祉の形態について理解する。					【到達目標】			
7	【授業単元】 医療福祉 小テスト				15	【授業単元】			
	【到達目標】 日本の社会保障制度の一つとして、医療保険制度が位置付けられている。この概要について理解する。					【到達目標】			
8	【授業単元】 精神保健福祉 テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 小テスト:6コマ = 40点 テスト: = 60点				
	【到達目標】 精神障害者の定義と取り巻く状況・法制度について学ぶ。								
【履修に当たっての心構え・留意点】					(計 100点満点)				

授 業 概 要

科目名	職場関連技術論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 障害を持つ人々のリハビリテーションの重要なゴールの一つとして挙げられる「就労」における作業療法士としての役割を知り、その知識、技術を身につける									
2. 就労支援、障害者雇用など、現在の社会資源の状況を知り、その上で作業療法士として何ができるかを考える									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は、精神科デイケアの経験も含めたOT31年目。精神科領域だけでなく、身障領域、発達領域、高齢者領域にも必要な職業リハビリテーション・就労支援等の知識を臨床経験に基づいて伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中村俊彦 他編:就労支援の作業療法. 医歯薬出版社, 2022					・各回の復習をする				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 就労支援に関する総論①				9	【授業単元】			
	【到達目標】 基礎概念などを理解することができる					【到達目標】			
2	【授業単元】 就労支援に関する総論②				10	【授業単元】			
	【到達目標】 職業評価などを理解することができる					【到達目標】			
3	【授業単元】 身体障害領域での就労支援①				11	【授業単元】			
	【到達目標】 各疾患の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
4	【授業単元】 身体障害領域での就労支援②				12	【授業単元】			
	【到達目標】 各疾患の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
5	【授業単元】 精神障害領域での就労支援				13	【授業単元】			
	【到達目標】 各疾患の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
6	【授業単元】 知的障害。発達障害領域での就労支援				14	【授業単元】			
	【到達目標】 各疾患の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
7	【授業単元】 司法領域・地域での就労支援				15	【授業単元】			
	【到達目標】 司法領域・地域の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
8	【授業単元】 まとめ・定期テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点(第1回は10点満点)とする。				
	【到達目標】 教科書(就労支援と作業療法)に書いてある内容をよく読んで、確認することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・時間的に教科書全てを説明することはできないので、授業で触れなかったところもよく読んで、わからないところがあれば積極的に質問してください									

授 業 概 要

科目名	作業療法管理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	松本秀一		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法領域における社会保障制度、職業倫理、業務管理、多職種・地域連携、医療の質とリスクマネジメント、養成教育と卒後教育などを学び、組織の管理・運営について学習する。									
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
実務経験：急性期・回復期・在宅期を経験し、現在は回復期リハビリテーション病院で勤務。 授業内容：教科書をベースとし、実際の臨床をリンクさせ、作業療法士業務のマネジメントについて。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書：作業療法管理学 入門（第2版） 参考教科書：同上					次回内容はシラバスを確認し教科書に目を通してください。小テスト・定期テストは教科書ないから出題します。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 作業療法とマネジメント 【到達目標】 マネジメントの特性、PDCAサイクルの考え方、作業療法士の目標設定について理解する				9	【授業単元】 作業療法の役割と領域 【到達目標】 作業療法の定義、領域を学び、職能団体の必要性を理解する。			
2	【授業単元】 組織の成り立ちとマネジメント 【到達目標】 作業療法士が属する組織について理解し、その中での役割について理解する。				10	【授業単元】 作業療法士の職業倫理 【到達目標】 作業療法における職業・研究倫理について学び、対象者への権利・尊厳を理解する。			
3	【授業単元】 情報のマネジメント 【到達目標】 情報の役割や種類を理解し、適切な使用が行える。				11	【授業単元】 作業療法士を取り巻く諸制度 【到達目標】 社会保障制度について学び、その特性や現状、課題を知る。また地域包括ケアシステムについて理解する。			
4	【授業単元】 作業と医療サービス 【到達目標】 サービスの特性を理解し、作業療法におけるサービス及び質の高い医療について理解する。				12	【授業単元】 作業療法臨床実習の理解と管理体制 【到達目標】 作業療法教育課程における臨床実習の位置づけを理解する。			
5	【授業単元】 医療安全のマネジメント 【到達目標】 医療機関におけるリスクマネジメント（医療事故・感染対策）について理解する。				13	【授業単元】 作業療法士のキャリア開発 【到達目標】 作業療法士が取得できる資格、学術研究について学ぶ。また生涯教育を行う上での自身のワークライフバランスを学習する。			
6	【授業単元】 作業療法業務のマネジメント①人・物・経済性のマネジメント 【到達目標】 人材育成・物品管理を学習し、リハビリ部門における経済特性を理解する。				14	【授業単元】 作業療法実践におけるマネジメント 【到達目標】 入院～退院、在宅生活までに作業療法士が携わる内容について学習し、その中でのどのようなマネジメントを行なっているか理解する。			
7	【授業単元】 作業療法業務のマネジメント②情報・時間・ストレスのマネジメント 【到達目標】 情報の特性を学び、時間・ストレスへのマネジメントについて理解する。				15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 作業療法領域におけるマネジメントについて知識の整理を行う。			
8	【授業単元】 作業療法業務のマネジメント③実践からの学び 【到達目標】 作業療法における業務管理・人材育成・地域・社会での役割について理解する。				【成績評価の方法と基準】 小テスト（14回×5点＝70点：40%） 定期テスト（1回×60点＝60点：60%） 両者の合計点により科目の評定（100%）とする。 テストは筆記テストを予定。（状況に応じて変更の可能性あり）				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
臨床の内容をベースとした授業となっています。臨床をイメージしながら取り組んで頂ければと考えています。									

授 業 概 要

科目名	作業療法評価学Ⅰ【精神障害領域】	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	水野 高昌		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神障害領域における評価技法を説明できること、および人を対象に実施できることを目標とする。 精神疾患により生活のしづらさに悩む人々への治療又は援助計画について、対象者の個別事情に応じて立案し実践するための知識を修得する。習得した知識は必要に応じて統合再構成し、他者に説明ができる。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神病院の精神科作業療法(3年間)、精神科診療所のデイケア・ナイトケア(16年間)の実務経験と、大学教員として16年の教員経験を有し、また、精神障害者向けのグループホーム(共同生活援助事業)の理事長としての(12年間)運営経験と、博士課程において「グループホームにおける作業療法」の研究テーマを開始し、現在、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)の交付を受け研究を継続している。これらの経験をもとに、精神障害領域の臨床実習や臨床勤務を念頭においた、演習授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①「精神障害と作業療法 新版」三輪書店 ②「作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版」メジカルビュー社 ③「精神科作業療法の理論と技術」メジカルビュー社					授業単元に応じた予習と復習が必要です				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価①				/				
4/5 (水) 6限	【到達目標】 作業療法の評価のプロセスを説明できる。 評価データの入手方法を説明できる。								
2	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価②								
4/12 (水) 6限	【到達目標】 評価における「面接」について説明できる。 評価における「面接」について実施できる。 小テスト①② (10点×2)								
3	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価③								
4/19 (水) 6限	【到達目標】 評価における「観察」について説明できる。 評価における「観察」について実施できる。 小テスト③ (10点)								
4	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価④								
4/26 (水) 6限	【到達目標】 評価における「作業面接」について説明できる。 評価における「作業面接」について実施できる。 小テスト④ (10点)								
5	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑤								
5/10 (水) 6限	【到達目標】 評価における「各種検査」について説明できる。 評価における「各種検査」について実施できる。 小テスト⑤ (10点)								
6	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑥								
5/17 (水) 6限	【到達目標】 評価における「各種検査」について実施できる。 小テスト⑥ (10点)								
7	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑦								
5/24 (水) 6限	【到達目標】 評価における「各種検査」について実施できる。								
8	【授業単元】 精神障害領域における作業療法の評価⑧				【成績評価の方法と基準】				
5/31 (水) 6限	【到達目標】 前半:定期テスト(60点) 後半:評価における「各種検査」について実施できる。				小テスト(10点×6回=60点:40%) 定期テスト(60点×1回=60点:60%) これらを合わせて科目の評定(100%)とする。				
					【履修に当たっての心構え・留意点】				
					臨床実習・臨床現場を想定した授業構成となっています。自主性に基ついた能動的な学習を求めます。 今まで蓄積した学習成果物(ノートやレポート、ポートフォリオ等)や教科書、参考書を活用し、必要に応じて、自ら資料や情報を収集し授業準備に臨んでください。				

授 業 概 要

科目名	作業療法評価学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
高齢期領域での使用される評価法を習得する。 評価の目的や意義を考慮ことができ、対象者の基本情報を基に評価計画を立てることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期リハビリテーション病院、訪問リハビリテーションにて勤務し、身体障害領域の小児から高齢者まで幅広く臨床経験があります。この授業では、高齢期の作業療法でよく行われる評価について、講義や実技を通して習得していきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
作業療法評価学 第3版 医学書院 その他参考資料は適宜紹介					授業内容の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 高齢期の作業療法(情報収集と面接)				9	【授業単元】			
	【到達目標】 授業の進め方を理解できる。 高齢期での作業療法評価の目的や特徴を理解できる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 高齢期に関する法律・制度				10	【授業単元】			
	【到達目標】 高齢期に関わる法律・制度について理解できる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 高齢期の包括的な評価 高齢期の環境設定				11	【授業単元】			
	【到達目標】 高齢期の包括的な評価について理解できる。 高齢期の環境設定について理解できる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 高齢期の作業に焦点を当てた評価 興味、役割、意欲の評価				12	【授業単元】			
	【到達目標】 高齢期の作業療法で用いられる興味、役割、意欲等の評価について理解できる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 認知症の評価: 認知機能、重症度				13	【授業単元】			
	【到達目標】 認知症の症状について説明できる。 認知症の認知機能・重症度評価についてそれぞれの特徴を説明できる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 認知症者の評価: BPSD、QOL				14	【授業単元】			
	【到達目標】 認知症のBPSDの評価について理解できる。 各種評価法の特徴を理解できる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 高齢期のケーススタディ				15	【授業単元】			
	【到達目標】 複合的な症状を併せ持つ高齢者に対する評価計画の立案ができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 前期の振り返り 定期テスト				【成績評価の方法と基準】 ・水野先生の前半分を50点、田中担当の後半分を50点として、講義全体を合計100点満点とする。それぞれの合計点からA～Fの6段階で評価する。 ・定期テストを30点、小テストの合計を20点の配点とする。 ・試験は筆記試験で行う。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	作業療法評価学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉良太・石井茉弥		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
運動機能評価法で学んだ基礎知識をもとに、授業を通して基礎的技法を習得することができる。 作業療法評価の意義、目的や手段、手順、評価におけるリスク管理等について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期・回復期病院、訪問リハビリテーションにて作業療法に従事。身体障害領域における作業療法評価について、講義または実技を通して知識や技術の獲得を図る。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法学【専門分野】 作業療法評価学 第3版 ベッドサイドの神経の診かた 新・徒手筋力検査法 第9版 リハビリテーションにおける評価法ハンドブック					各評価の目的については事前に予習しておき、質問・疑問については授業内で確認できるようにしておく。 手技・実技に関してはクラスメイトと反復練習を行ってください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 2	【授業単元】 作業療法の評価について、またその評価の目的・意義について理解する。 【到達目標】 評価の意義について説明できるようになる。 バイタルサインを評価できるようになる。 評価内容からリスク管理を考えることができるようになる。				17 18	【授業単元】 深部腱反射と姿勢反射に関する知識・技術を習得する。(打腿器) 小テスト2.5点 【到達目標】 深部腱反射と姿勢反射の概要・目的を説明できる。 深部腱反射と姿勢反射を実施できる。			
3 4	【授業単元】 形態測定と関節可動域測定に関する知識・技術を習得する。 (メジャーとゴニオメーター) 小テスト2.5点 【到達目標】 形態測定と関節可動域測定の概要・目的を説明できる。 形態測定と関節可動域測定を実施できる。				19 20	【授業単元】 筋緊張検査と協調性検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト5点 【到達目標】 筋緊張検査と協調性検査の概要・目的を説明できる。 筋緊張検査と協調性検査を実施できる。			
5 6	【授業単元】 形態測定と関節可動域測定に関する知識・技術を習得する。 (メジャーとゴニオメーター) 小テスト2.5点 【到達目標】 形態測定と関節可動域測定の概要・目的を説明できる。 形態測定と関節可動域測定を実施できる。				21 22	【授業単元】 脳神経検査と摂食嚥下機能検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト5点 【到達目標】 脳神経検査と摂食嚥下機能検査の概要・目的を説明できる。 脳神経検査と摂食嚥下機能検査を実施できる。			
7 8	【授業単元】 徒手筋力検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点 【到達目標】 徒手筋力検査の概要・目的を説明できる。 徒手筋力検査を実施できる。				23 24	【授業単元】 上肢機能評価に関する知識・技術を習得する。 小テスト5点 【到達目標】 上肢機能評価の概要・目的を説明できる。 上肢機能評価を実施できる。			
9 10	【授業単元】 徒手筋力検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点 【到達目標】 徒手筋力検査の概要・目的を説明できる。 徒手筋力検査を実施できる。				25 26	【授業単元】 脳卒中の評価に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点 【到達目標】 脳卒中の評価の概要・目的を説明できる。 脳卒中の評価を実施できる。			
11 12	【授業単元】 感覚検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点 【到達目標】 感覚検査の概要・目的を説明できる。 感覚検査を実施できる。				27 28	【授業単元】 脳卒中の評価に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点 【到達目標】 脳卒中の評価の概要を説明できる。 脳卒中の評価を実施できる。			
13 14	【授業単元】 感覚検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点 【到達目標】 感覚検査の概要・目的を説明できる。 感覚検査を実施できる。				29 30	【授業単元】 授業の振り返りと定期テスト 定期テスト60点 【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
15 16	【授業単元】 前半の振り返りと中テスト 中テスト40点 【到達目標】 基準点の到達				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・定期試験は筆記試験と実技試験で行う。 ・毎回の小テスト及び中テストは筆記試験で実施する。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習や国家試験のみならず、臨床現場でも行うことが多い評価方法です。授業時間のみで実習生レベルの実技取得は困難です。各自自主練習時間の確保をお願いします。全身を使って覚えていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	作業療法評価学Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	佐々木愛理 工藤隆一		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
症例を用いて応用的な評価法の選択、評価結果より症例の全体像を考えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
急性期・回復期病院、訪問リハビリテーションにて主に脳卒中の作業療法に15年以上従事。平成22年より脳画像に関する講義および有料セミナーを行っている。本講義では身体障害領域にて行う基本的な評価方法及び、症例を想定した評価の実践を演習として実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 ②ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂 ③徒手筋力検査法 第10版 協同医学出版社					ゴニオメーター、打撃器、教科書①は常に持参をお願いします。 教科書をしっかりと読むこと。実技練習！				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 姿勢観察と分析(臥位)				9	【授業単元】 症例検討			
	【到達目標】 姿勢観察のポイントを知り、実践できる。					【到達目標】 症例を用いて応用的な評価法の選択、評価結果より症例の全体像を考えることができる。			
2	【授業単元】 姿勢観察と分析(座位)				10	【授業単元】 症例検討			
	【到達目標】 姿勢観察のポイントを知り、実践できる。					【到達目標】 症例を用いて応用的な評価法の選択、評価結果より症例の全体像を考えることができる。			
3	【授業単元】 姿勢観察と分析(立位)				11	【授業単元】 症例検討			
	【到達目標】 姿勢観察のポイントを知り、実践できる。					【到達目標】 症例を用いて応用的な評価法の選択、評価結果より症例の全体像を考えることができる。			
4	【授業単元】 動作観察と分析(寝返り～起居)				12	【授業単元】 症例検討			
	【到達目標】 動作観察のポイントを知り、実践できる。					【到達目標】 症例を用いて応用的な評価法の選択、評価結果より症例の全体像を考えることができる。			
5	【授業単元】 動作観察と分析(起立)				13	【授業単元】 症例検討			
	【到達目標】 動作観察のポイントを知り、実践できる。					【到達目標】 症例を用いて応用的な評価法の選択、評価結果より症例の全体像を考えることができる。			
6	【授業単元】 動作観察と分析(リーチ動作)				14	【授業単元】 症例検討			
	【到達目標】 動作観察のポイントを知り、実践できる。					【到達目標】 症例を用いて応用的な評価法の選択、評価結果より症例の全体像を考えることができる。			
7	【授業単元】 臨床思考過程について				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】					【到達目標】 定期試験の合格			
8	【授業単元】 症例検討				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 症例を用いて応用的な評価法の選択、評価結果より症例の全体像を考えることができる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業時間内のみで実習生レベルの実技習得は困難です。各自自主練習時間の確保をお願いします。									

授 業 概 要

科目名	身体障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中村 美歌		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体障害領域でみられる疾患に対する作業療法介入を理解することができる。 症状や病期等に基づいた介入方法について理解し、検討できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害領域の回復期リハビリテーション病院にて18年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。 身体障害領域の作業療法について実践例も交えながら授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 メジカルビュー社					授業単元に応じた予習・復習をしてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 身体障害における作業療法の流れ、リスク管理、標準予防策 ポジショニング、シーティング				9	【授業単元】 疾患別治療論2: 脊髄損傷			
	【到達目標】 身体障害における作業療法の流れを理解できる。 身体障害の作業療法で必要なリスク管理を理解できる。 ポジショニングの意義や必要性、実施方法を理解できる。					【到達目標】 脊髄損傷に対する治療法について理解できる。			
2	【授業単元】 身体障害における作業療法: 基本動作、移乗、移動 治療論1: 関節可動域、筋力				10	【授業単元】 疾患別治療論3: 骨折			
	【到達目標】 基本動作、移乗、移動での介助者の身体の動かし方を理解できる。 基本的な治療方法について理解できる。					【到達目標】 骨折に対する治療法について理解できる。			
3	【授業単元】 治療論2: 筋緊張、感覚、廃用、物理療法				11	【授業単元】 疾患別治療論4: 関節リウマチ、末梢神経損傷、屈筋腱損傷			
	【到達目標】 基本的な治療方法について理解できる。 基本的な治療方法の適応の仕方を理解できる。					【到達目標】 関節リウマチ、末梢神経損傷、屈筋腱損傷に対する治療法について理解 できる。			
4	【授業単元】 治療論3: 呼吸練習法、排痰手技、摂食嚥下練習、構音練習				12	【授業単元】 疾患別治療論5: 多発性硬化症、ギランバレー症候群、糖尿病、悪性腫瘍			
	【到達目標】 基本的な呼吸・排痰・嚥下の練習法を理解できる。					【到達目標】 各病気の特徴とそれに対する作業療法について理解できる。			
5	【授業単元】 治療論4: ADL練習				13	【授業単元】 疾患別治療論6: パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化 症			
	【到達目標】 ADLの練習方法について理解できる。 福祉用具や自助具の取り入れ方を理解できる。					【到達目標】 各病気の特徴とそれに対する作業療法について理解できる。 重症度に合わせた介入について理解できる。			
6	【授業単元】 治療論5: IADL練習				14	【授業単元】 疾患別治療論7: 心疾患、呼吸器疾患			
	【到達目標】 IADLの練習方法について理解できる。 福祉用具や自助具の取り入れ方を理解できる。					【到達目標】 各病気の特徴とそれに対する作業療法について理解できる。 運動強度について理解できる。			
7	【授業単元】 疾患別治療論1: 脳血管疾患①				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト			
	【到達目標】 脳血管疾患に対する治療法について理解できる。 主に機能訓練の方法を理解できる。					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに 活かすことができる。			
8	【授業単元】 前期の復習と中テスト 疾患別治療論1: 脳血管疾患②				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、A からFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点 満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数で ない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに 活かすことができる。 脳血管疾患に対して、主に退院支援について理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実技を行いますので、動きやすい服装で参加して下さい。									

授 業 概 要

科目名	老年期治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	早川るみこ	
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
高齢者の加齢による身体的、心理的、社会的な変化や老年期障害に対する評価、治療に関する基礎知識を学ぶ。①高齢者が生きてきた時代背景や社会の推移を理解する。②高齢者の心身機能、その特性について理解する。③老年期障害の生活・障害構造、社会資源を理解する。④老年期の作業療法で活用できる検査・測定方法を理解した上で(評価学にて)それらに対する具体的援助を考えられる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
医療・介護保険施設(回復期・通所リハビリ、訪問リハビリ・小規模多機能型施設)で勤務。施設で高齢者を支える上でチームアプローチの重要性など勉強会を実施したり、介護予防に関する事業を展開している。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
使用教科書: 高齢期作業療法学(第3版)医学書院 参考教科書: 作業療法評価学					身体領域・精神領域で高齢者にも多い疾患の復習(脳血管障害、パーキンソン病、骨折、うつ病など)			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高齢社会とは6~16)、高齢期の課題(P17~28)、高齢期作業療法の目的(P33~38)			9	【授業単元】 認知症(P64~73)			
	【到達目標】 ・高齢者の定義、加齢と老化の違い ・高齢期のエリクソンの発達課題 ・高齢者に対する作業療法の目的 を説明できる *レポートについて説明				【到達目標】 ・認知症の分類に基づく病態像・原因・症状、留意点について説明できる ・評価や治療について説明できる			
2	【授業単元】 高齢者の特徴①(P39~50)			10	【授業単元】 高齢者に対する作業療法の過程と生活の見方(P85~94)			
	【到達目標】 ・高齢者の7つの特徴 ・高齢期に起こる身体的加齢変化 を説明できる				【到達目標】 評価の過程、高齢者独自の必要な検査測定を説明できる			
3	【授業単元】 高齢者の特徴②(P39~50)			11	【授業単元】 演習(介護予防)			
	【到達目標】 ・高齢者の7つの特徴 ・老年症候群 ・高齢期に起こる心理精神的变化 を説明できる				【到達目標】 介護予防の観点で理解できる 事例から評価~目標、治療プログラムの立案ができる 事例検討し、その人らしさにつながる作業療法を考えることができる			
4	【授業単元】 社会制度(P29~32、224~229)			12	【授業単元】 症例演習			
	【到達目標】 高齢者に関する法律の概要 ・介護保険制度と地域包括ケアシステム を説明できる ☆地域課題について資料作り課題(15回目で発表)について説明				【到達目標】 事例から評価~目標、治療プログラムの立案ができる 事例検討し、その人らしさにつながる作業療法を考えることができる			
5	【授業単元】 高齢期に多い疾患①(P51~63)			13	【授業単元】 症例演習			
	【到達目標】 ・高齢期に多い疾患の病態像・原因・症状、留意点について説明できる ・評価や治療について説明できる				【到達目標】 事例から評価~目標、治療プログラムの立案ができる 事例検討し、その人らしさにつながる作業療法を考えることができる			
6	【授業単元】 高齢期に多い疾患②(P51~63)			14	【授業単元】 症例演習			
	【到達目標】 ・高齢期に多い疾患の病態像・原因・症状、留意点について説明できる ・評価や治療について説明できる				【到達目標】 事例から評価~目標、治療プログラムの立案ができる 事例検討し、その人らしさにつながる作業療法を考えることができる			
7	【授業単元】 病期や実施場所による違い(P95~104)			15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ・病期や実施場所による治療・援助内容の違いを説明できる				【到達目標】 試験を通して振り返り、自身の学習につなげる			
8	【授業単元】 認知症(P64~73)			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・認知症の分類に基づく病態像・原因・症状、留意点について説明できる ・評価や治療について説明できる			老年期治療学として基本的知識から評価・治療までを範囲とします。各回で授業内で国家試験問題などを通した問題演習を行います。その問題からも出題します。 配分は定期試験60%、小テスト・レポートで40% 定期試験は、記述・5択選択問題100点、小テストは選択問題です。 小テストは4(範囲1~3回まで)・7(範囲4~6回)・10回(範囲8~9回)の授業終了時に行います(各回10点)。レポートは症例演習を行う中で作成します。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
興味関心、疑問を持ったことに対して、できるだけ表出していきます。								

授 業 概 要

科目名	精神障害治療学【前期】	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	水野 高昌		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神障害領域における対象疾患について学び、各期における病態像を理解するとともに、それに合わせた治療的アプローチを理解し、他者に説明できることを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神病院の精神科作業療法(3年間)、精神科診療所のデイケア・ナイトケア(16年間)の実務経験と、大学教員として16年の教員経験を有し、また、精神障害者向けのグループホーム(共同生活援助事業)の理事長としての(12年間)運営経験と、博士課程において「グループホームにおける作業療法」の研究テーマを開始し、現在、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)の交付を受け研究を継続している。これらの経験をもとに、精神障害領域の臨床実習や臨床勤務を念頭においた授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①「精神障害と作業療法 新版」三輪書店 ②「作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版」メジカルビュー社 ③「精神科作業療法の理論と技術」メジカルビュー社					レポート課題含め、授業単元に応じた予習と復習が必要です				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 精神障害領域の作業療法と精神科作業療法 1				9	【授業単元】 各論 疾患・障害と作業療法3 「気分障害(うつ病)」			
4/5 (水) 7限	【到達目標】 精神障害領域における、精神障害リハビリテーションと作業療法に関する基礎知識(治療構造)について説明できる。				6/7 (水) 7限	【到達目標】 気分障害(うつ病)の作業療法について説明できる。			
2	【授業単元】 精神障害領域の作業療法と精神科作業療法 2				10	【授業単元】 各論 疾患・障害と作業療法4 「気分障害(双極性障害)」			
4/12 (水) 7限	【到達目標】 精神障害者の入院治療と作業療法について説明できる。				6/14 (水) 7限	【到達目標】 気分障害(双極性障害)の作業療法について述べる事ができる。			
3	【授業単元】 精神障害領域での集団・場				11	【授業単元】 各論 疾患・障害と作業療法5 「神経症性障害」			
4/19 (水) 7限	【到達目標】 精神障害領域での集団の活用の仕方を推論することができる。				6/21 (水) 7限	【到達目標】 神経症性障害の作業療法について説明できる。			
4	【授業単元】 精神障害領域での個別アプローチ(MTDLPを中心に)				12	【授業単元】 各論 疾患・障害と作業療法6 「発達障害」			
4/26 (水) 7限	【到達目標】 精神障害領域での個別アプローチの実際について説明することができる				6/28 (水) 7限	【到達目標】 発達障害が基底にある適応障害と作業療法について推論できる。			
5	【授業単元】 精神障害領域の作業療法における各種理論 1				13	【授業単元】 各論 疾患・障害と作業療法7 「物質依存」			
5/10 (水) 7限	【到達目標】 精神療法、力動精神医学について説明できる。				7/5 (水) 7限	【到達目標】 物質依存への作業療法について説明できる。			
6	【授業単元】 精神障害領域の作業療法における各種理論 2				14	【授業単元】 各論 疾患・障害と作業療法8 「パーソナリティ障害」「摂食障害」			
5/17 (水) 7限	【到達目標】 認知行動療法、認知機能リハビリテーションについて述べる事ができる。				7/12 (水) 7限	【到達目標】 パーソナリティ障害、摂食障害への作業療法について述べる事ができる。			
7	【授業単元】 中間試験 各論 疾患・障害と作業療法1 「統合失調症・急性期の作業療法」				15	【授業単元】 定期試験 精神障害領域における治療援助に関する概説および祭典内容の解説			
5/24 (水) 7限	【到達目標】 統合失調症の急性期の作業療法について述べる事ができる。				7/19 (水) 7限	【到達目標】 精神障害領域における治療援助について述べる事ができる			
8	【授業単元】 各論 疾患・障害と作業療法2 「統合失調症・回復期から維持期、再発予防の作業療法」				【成績評価の方法と基準】				
5/31 (水) 7限	【到達目標】 統合失調症の回復期から維持期、再発予防の作業療法について説明できる。				第2回～第6回、第8回～第14回まで5点満点の小テスト【12回 60点】を実施 第7回の授業はじめに中間試験【25点満点】を行う。 第15回は定期テスト【35点満点】を実施する。 小テスト【60点】+中間テスト【25点】+定期テスト【35点】=120点 上記の120点を100点満点に換算し 60%以上の得点率で合格とし、 AからEまでの5段階で評価を行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
臨床の知識につながる内容を学習していきます。それらの知識を身に付け、評価実習や臨床実習で実践出来るようにしていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	精神障害治療学【後期】	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	水野 高昌		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
評価学と治療学、地域作業療法で学習した知識を臨床実践へつなげていくための技術習得を目指す。評価及び治療過程で必要とされる各種技法を体験的に知り、情報と事実を記録報告できること、精神科領域での諸問題に対する基本的な対応について自分の知識経験を統合して説明できることを目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神病院の精神科作業療法(3年間)、精神科診療所のデイケア・ナイトケア(16年間)の実務経験と、大学教員として16年の教員経験を有し、また、精神障害者向けのグループホーム(共同生活援助事業)の理事長としての(12年間)運営経験と、博士課程において「グループホームにおける作業療法」の研究テーマを開始し、現在、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)の交付を受け研究を継続している。これらの経験をもとに、精神障害領域の臨床実習や臨床勤務を念頭においた、事例検討を中心にPBL(問題解決型授業)を取り入れた演習授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①「精神科作業療法の理論と技術」メジカルビュー社 ②「作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版」メジカルビュー ③「精神障害のある人と家族のための生活・医療・福祉制度のすべてQ&A 第11版」萌文社					レポート課題含め、授業単元に応じた予習と復習が必要です				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 記録・報告書作成(2)			
8/18 (金) 7限	【到達目標】 演習の内容、臨む態度、レポート作成と提出についての説明できる				11/10 (金) 7限	【到達目標】 精神障害領域における症例報告・レジメ等の書き方を説明できる			
11/10 休講: OT学会(沖縄)									
2	【授業単元】 事例検討(1)				10	【授業単元】 事例検討(7)			
8/25 (金) 7限	【到達目標】 提示された事例に対する評価計画(収集すべき項目立て、及び順序性とリーズニング)をたてることができる				11/17 (金) 7限	【到達目標】 グループで考察・検討した結果、作成した評価結果に基づきOT介入計画を作成できる ⇒課題レポート③(治療計画): ?/? (金)提出 〳切 (Teamsに提出)			
3	【授業単元】 事例検討(2)				11	【授業単元】 事例発表(1) 作業療法介入計画をグループにより発表、質疑応答を行うことができる			
9/1 (金) 7限	【到達目標】 提示された事例に対する評価計画(収集すべき項目立て、及び順序性とリーズニング)をたてることができる				11/24 (金) 7限	【到達目標】 発表時間 45分×2グループ 15分: 計画したプログラムを対象者に伝え・同意を得る場面のシミュレーション+レジメとPPIによる解説ができる 30分: ディスカッション・教員からのコメントを理解できる			
4	【授業単元】 事例検討(3)				12	【授業単元】 事例発表(2) 作業療法介入計画をグループにより発表、質疑応答を行うことができる			
9/8 (金) 7限	【到達目標】 提示された情報に基づいて、起こり得る課題や問題及び利点等をまとめる: マインドマップや相関図、ICFなどを活用⇒全体像、評価のまとめ、問題点の焦点化項目などを作成できる ⇒課題レポート①(評価計画): ?/? (金)提出 〳切 (Teamsに提出)				12/1 (金) 7限	【到達目標】 発表時間 45分×2グループ 15分: 計画したプログラムを対象者に伝え・同意を得る場面のシミュレーション+レジメとPPIによる解説ができる 30分: ディスカッション・教員からのコメントを理解できる			
5	【授業単元】 事例検討(4)				13	【授業単元】 事例検討(8)			
9/15 (金) 7限	【到達目標】 提示された情報に基づいて、起こり得る課題や問題及び利点等をまとめる: マインドマップや相関図、ICFなどを活用⇒全体像、評価のまとめ、問題点の焦点化項目などを作成できる				12/8 (金) 7限	【到達目標】 評価実習で担当した事例について、評価内容と治療内容を再検討し、臨床実習に向けて、不足する知識と技術について準備する内容と計画を立てることができる			
6	【授業単元】 事例検討(5)				14	【授業単元】 事例問題			
9/22 (金) 7限	【到達目標】 グループで考察・検討した結果、作成した評価結果に基づきOT介入計画を作成できる ⇒課題レポート②(評価のまとめ・目標設定): ?/? (金)提出 〳切 (Teamsに提出)				12/15 (金) 7限	【到達目標】 国家試験で出題される実地問題と臨床実習で体験した事象とを結び付けて説明できる			
7	【授業単元】 事例検討(6)				15	【授業単元】 定期テスト			
9/29 (金) 7限	【到達目標】 グループで考察・検討した結果、作成した評価結果に基づきOT介入計画を作成できる				12/22 (金) 7限	【到達目標】 国家試験で出題される実地問題と臨床実習で体験した事象とを結び付けて説明できる			
8	【授業単元】 記録・報告書作成(1)				【成績評価の方法と基準】 予め提示する「レポートの採点基準」により、課題レポートにて学習内容の到達度を評価(60%)する。 また、授業・事例発表時の取り組み姿勢を5段階評価し(20%)、そして、定期試験の獲得点数(20%)を換算し、これらを合わせて科目の評定とする。				
11/3 (祝) (金) 7限	【到達目標】 精神障害領域におけるデイリーノート・ケースノート等の書き方を説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
臨床実習・臨床現場を想定した授業構成となっています。自主性に基づいた能動的な学習を求めます。今まで蓄積した学習成果物(ノートやレポート、ポートフォリオ等)や教科書、参考書を活用し、必要に応じて、自ら資料や情報を収集し授業準備に臨んでください。									

授 業 概 要

科目名	発達障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	戸川 鎮男		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 発達障害領域における各障害に対する知識を身に付ける。 発達領域における作業療法の実践を知る。 発達領域における治療理論を知り、治療を考えることができるようになる。									
【学習内容】 急性期と発達障害領域で臨床経験を積んできた教員が、発達領域に関わる疾患の基礎知識を習得し、治療を考える授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】 イラストでわかる 発達障害の作業療法					【授業時間外における学習】 復習に重点を置いて下さい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 人間発達についての復習 発達障害総論 定義・分類				9	【授業単元】 治療理論② 治療の実際(姿勢・運動へのアプローチ) 演習			
	【到達目標】 人間発達の流れを復習する。 発達領域についての概念を知る。					【到達目標】 姿勢・運動に対する治療を考えることができるようになる。			
2	【授業単元】 各論① 姿勢・運動に関する疾患について(脳性まひ・筋ジストロフィー等)				10	【授業単元】 治療理論③ 治療の実際(知的障害へのアプローチ) 演習			
	【到達目標】 姿勢・運動に関する疾患についての説明ができるようになる。					【到達目標】 知的障害に対する治療を考えることができるようになる。			
3	【授業単元】 各論② 姿勢・運動に関する疾患について(脳性まひ・筋ジストロフィー等)				11	【授業単元】 治療理論④ 治療の実際(感覚統合理論) 演習・講義			
	【到達目標】 姿勢・運動に関する疾患についての説明ができるようになる。					【到達目標】 感覚統合療法の内容を述べるようになる。			
4	【授業単元】 各論③ 姿勢・運動に関する疾患について(脳性まひ・筋ジストロフィー等)				12	【授業単元】 治療理論⑤ 治療の実際(感覚統合理論) 演習			
	【到達目標】 姿勢・運動に関する疾患についての説明ができるようになる。					【到達目標】 感覚統合理論を踏まえた治療を考えることができるようになる。			
5	【授業単元】 各論④ 知的な障害に関する疾患について(ASD等)				13	【授業単元】 発達障害領域のOTとして			
	【到達目標】 発達障害に関する疾患についての説明ができるようになる。					【到達目標】 発達障害児を取り巻く環境について考え、それを述べるようになる。			
6	【授業単元】 各論⑤ 知的な障害に関する疾患について(ASD等)				14	【授業単元】 症例検討 グループディスカッション			
	【到達目標】 発達障害に関する疾患についての説明ができるようになる。					【到達目標】 症例の評価をし、プログラムを考えてみる。			
7	【授業単元】 各論⑥ 知的な障害に関する疾患について(ASD等)				15	【授業単元】 期末テスト 総復習			
	【到達目標】 発達障害に関する疾患についての説明ができるようになる。					【到達目標】 授業内容の総復習を行う。			
8	【授業単元】 中テスト 治療理論① 治療の実際(姿勢・運動へのアプローチ) 演習				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点、両者の合計点をA～Fの6段階で評価します。 ・試験は筆記試験です。 ・毎回の小テスト(発表点)は各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とします。				
	【到達目標】 姿勢・運動に対する治療を考えることができるようになる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 発達領域の実際をお伝えします。 治療に関しての部分は考えながら楽しんでみてください。 復習を主に行ってもらえると良いと思います。									

授 業 概 要

科目名	義肢装具学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科 夜間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
義肢装具学について学び、臨床および国家試験でのポイントを理解出来るようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切に講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
義肢装具学(医学書院)					授業内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 義肢装具学① 装具編 【到達目標】 装具総論 P24～38 その概要・要点を理解・説明できる。				2	【授業単元】 義肢装具学② 脳卒中 上肢編 小テスト①・② 【到達目標】 装具総論 脳卒中の病態を理解して、CRPS(複合性局所疼痛)について概要・要点を理解・説明できる。			
3	【授業単元】 義肢装具学③ 各論 脳卒中片麻痺 下肢編 P39～53 【到達目標】 装具総論 歩行メカニズムP7の範囲装具の力学的メカニズム(別紙)、P39の脳卒中の装具について概要・要点を理解・説明できる。				4	【授業単元】 義肢装具学④ 各論 上肢の装具 P54～P86 小テスト③・④ 【到達目標】 P.54～57について、その概要・要点を理解・説明できる。 特に上肢についての装具について			
5	【授業単元】 義肢装具学⑥ 上肢補助具の作成 【到達目標】 実際に上肢補助具を作成する。 持参物に関しては後日お知らせします。				6	【授業単元】 義肢装具学⑥ 上肢補助具の作成 【到達目標】 実際に上肢補助具を作成する。 持参物に関しては後日お知らせします。			
7	【授業単元】 義肢装具学⑦ 装具の復習・国家試験問題の解答・解説 【到達目標】 授業①～⑥部分の復習と国家試験問題、その概要・要点を理解・説明できる。				8	【授業単元】 定期テスト 前半 30点 【到達目標】 授業1～6の小テストおよび国家試験問題を中心に出题			
9	【授業単元】 義肢装具学⑨ 義肢編 切断について 【到達目標】 切断総論P102～P112 その概要・要点を理解・説明できる。				10	【授業単元】 義肢装具学⑩ 切断のリハビリテーション 小テスト ⑨・⑩ 【到達目標】 P.113～124について、その概要・要点を理解・説明できる。			
11	【授業単元】 義肢装具学⑪ 義肢総論 【到達目標】 P126～P134 についてその概要・要点を理解・説明できる。				12	【授業単元】 義肢装具学⑫ 義足 小テスト⑪・⑫ 【到達目標】 P135～P170について、その概要・要点を理解・説明できる。			
13	【授業単元】 義肢装具学⑬ 義手 【到達目標】 P171～P186について、その概要・要点を理解・説明できる。				14	【授業単元】 義肢装具学⑭ 国家試験問題 小テスト⑬ 【到達目標】 福祉用具について、その概要・要点を理解・説明できる。			
15	【授業単元】 義肢装具学⑮ 定期テスト 30点 【到達目標】 小テストおよび国家試験問題を中心に出题				【成績評価の方法と基準】 評価方法:筆記試験 時期:小テスト(毎回)、定期テスト(11/1・12/6実施) 配点方法:定期試験60点、小テスト等40点の配点で総合し、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書など指示された持参物を忘れず持参すること。説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。									

授 業 概 要

科目名	日常生活活動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>日常生活活動・手段的日常生活動作に対する基本的な作業療法について理解する。 日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる。 日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明できる。 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士(17年目)が、臨床現場で必要となる日常生活活動論・手段的日常生活活動論を経験談を交えて提供する。 必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々な評価方法や作業療法への展開の仕方を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料、指定教科書					自主学习				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 起居動作・移動 食事動作				17	【授業単元】 整容動作 更衣動作			
2	【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。				18	【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。			
3	【授業単元】 整容動作 更衣動作				19	【授業単元】 排泄動作 入浴動作			
4	【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。				20	【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。			
5	【授業単元】 排泄動作 入浴動作				21	【授業単元】 睡眠・栄養・運動 炊事			
6	【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。				22	【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。			
7	【授業単元】 睡眠・栄養・運動 炊事				23	【授業単元】 掃除 買い物・経済管理			
8	【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。				24	【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。			
9	【授業単元】 掃除 買い物・経済管理				25	【授業単元】 交通機関の利用・自動車運転 通信			
10	【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。				26	【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。			
11	【授業単元】 交通機関の利用・自動車運転 通信				27	【授業単元】 趣味活動・社会参加			
12	【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。				28	【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。			
13	【授業単元】 趣味活動・社会参加 総復習				29	【授業単元】 総復習			
14	【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。				30	【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。			
15	【授業単元】 起居動作・移動 食事動作				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、授業の小テスト等40%の配分で総合し、 AからFの6段階で評価を行う。 授業の小テストは合計65点、中テスト(おおよそ半分の授業回数で実施予定) は15点満点とする(合計80点)。その合計の1/2の点数を小テストの合計点と する。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 ○試験は①実技試験+口頭試問(20点+20点)、②筆記試験(20点)				
16	【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
演習では主に脳血管障害と脊髄損傷のADL指導と介助方法の習得を図ります。演習の際には動きやすい格好で登校者又は学校で着替えてください。実習や現場に出た時に必ず必要になるスキルですので積極的な参加を期待します。									

授 業 概 要

科目名	高次脳機能障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉 良 太		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	3 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 国家試験に出題されるレベルの基本的な高次脳機能障害を理解し、言葉で説明ができる。 2. 高次脳機能障害に対応する代表的な検査を体験し、特徴を述べるができる。 3. 高次脳機能障害とADLの繋がりを理解し、障害像をイメージできる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
急性期・回復期病院、訪問リハビリテーションにて主に脳卒中の作業療法に15年以上従事。平成22年より脳画像に関する講義および有料セミナーを行っている。本講義では作業療法士の介入に期待が集まる高次脳機能障害について障害の基礎を学び検査法、介入方法の一部まで取り上げる。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書①高次脳機能障害学 第3版 教科書②リハビリテーションにおける評価法ハンドブック					情報量が多いため授業毎に知識の整理をお願いします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高次脳障害総論				10-11	【授業単元】 脳画像について③			
	【到達目標】 学んだ高次脳機能障害について理解し、説明ができる。					【到達目標】 マニュアルに沿って高次脳機能検査が実施できる。			
2	【授業単元】 失語症				12-13	【授業単元】 高次脳機能検査について(教科書②P89「HDS-RMMSE」、教科書②P53「TMT」)			
	【到達目標】 学んだ高次脳機能障害について理解し、説明ができる。					【到達目標】 マニュアルに沿って高次脳機能検査が実施できる。			
3	【授業単元】 失行・失行・失認/関連症状、行為の障害				14-15	【授業単元】 高次脳機能検査について(教科書②P79「BIT」、教科書②P68「BADS」) 高次脳機能検査について(その他 高次脳機能検査)			
	【到達目標】 学んだ高次脳機能障害について理解し、説明ができる。					【到達目標】 高次脳機能検査の内容を理解できる。			
4	【授業単元】 ゲルストマン症候群、構成障害、着衣障害 半側空間無視、その他空間性障害				16-17	【授業単元】 症例検討①(障害像の予測)			
	【到達目標】 学んだ高次脳機能障害について理解し、説明ができる。					【到達目標】 これまでの知識を用いて、症例検討ができる。			
5	【授業単元】 注意障害				18-19	【授業単元】 症例検討②(対応する作業療法評価のピックアップ)			
	【到達目標】 学んだ高次脳機能障害について理解し、説明ができる。					【到達目標】 これまでの知識を用いて、症例検討ができる。			
6	【授業単元】 遂行機能障害 外傷性脳損傷				20-21	【授業単元】 症例検討③(対応する作業療法評価のピックアップ)			
	【到達目標】 学んだ高次脳機能障害について理解し、説明ができる。					【到達目標】 定期試験に向けて知識の整理ができる。			
7	【授業単元】 脳画像について①				22-23	【授業単元】 復習、定期試験			
	【到達目標】 学んだ高次脳機能障害について理解し、説明ができる。					【到達目標】			
8-9	【授業単元】 中テスト 脳画像について②				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 学んだ高次脳機能障害について理解し、説明ができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
高次脳機能障害は目に見えづらい障害です。多くの知識を身に付け、少しでも臨床の対象者様を理解できるように努めましょう。									

授 業 概 要

科目名	測定実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中村勇貴・他9名				
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	3	単位	総時間数	135	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床Ⅰ（評価）実習の前に実際の対象者を通して、検査、測定 of 技術を身に付ける事が出来るようになる。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：中村勇樹・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・佐藤祐子・泉良太・小泉雄一・田中直幸・濱畑法生・石井茉弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
測定実習要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な臨床技能・技術習得目的とする ・ディリーノート・レジュメ・実習ポートフォリオの作成 ・担当症例は持たず、様々な検査項目の実施を行う <p><必須></p> <ul style="list-style-type: none"> バイタルサイン（血圧・脈拍）測定 ROMテスト MMTテスト ブルンストロームステージテスト <p><状況に応じて実施></p> <ul style="list-style-type: none"> 感覚検査 高次脳機能検査 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中村勇貴・他9名				
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	7	単位	総時間数	315	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床（評価）実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを把握する事が出来るようになる。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：中村勇貴・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・佐藤祐子・泉良太・小泉雄一・田中直幸・濱畑法生・石井茉弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅰ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p>実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前後におけるOSCE（客観的臨床能力試験）実施 ・実習要項・実習前後教育についての説明（実習に臨む姿勢や心構えの理解を含む） ・記録の取り方・観察・評価計画についての理解 ・評価のまとめから、プログラム立案に至る過程の理解 ・集団療法 ・リスク管理 ・精神科医療に関わる制度について ・症例検討・症例発表 ・リハビリ職（PT・ST）他職の理解 <p>以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <ul style="list-style-type: none"> 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など） ・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の習得 評価計画を立てる 評価の準備をする 評価実施 評価結果から全体像を把握する 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	菅原匡宏(小林誠、渡辺陵介)		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】 作業療法士国家試験過程(解剖・生理学)の要点を8割以上理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床面では、整形外科病院に8年間勤務し、現在訪問看護ステーションに勤務(臨床経験14年目)。教育面では、首都大学東京(担当:運動学実習)、医進学園(担当:PT/OT/鍼灸国試対策:オンライン講座担当)に従事。臨床、教育両面の経験を活かした講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】 クエッションバンク					【授業時間外における学習】 講義内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 循環器系、消化器系 【到達目標】 「大動脈からの分岐、ウイリス動脈輪、静脈、リンパ系、心臓の構造、血液細胞、消化酵素、咀嚼、嚥下」について、その概要・要点を理解・説明できる。				9	【授業単元】 国家試験対策⑤ 【到達目標】 義肢装具学/スプリントについて、その概要・要点を理解・説明できる。			
2	【授業単元】 消化器系、呼吸器系 【到達目標】 「小腸・大腸・肝臓・膵臓の解剖・生理、膀胱(尿)、呼吸器系の構造、肺炎				10	【授業単元】 国家試験対策⑥ 【到達目標】 小脳疾患/脊髄小脳変性症について、その概要・要点を理解・説明でき			
3	【授業単元】 呼吸器系、代謝、内分泌系 【到達目標】 「呼吸中枢・呼吸生理、酸基平衡、基礎代謝、METS・RMR、ホルモンの種				11	【授業単元】 国家試験対策⑦ 【到達目標】 ROMIについて、その概要・要点を理解・説明できる。			
4	【授業単元】 発生と組織 【到達目標】 「細胞の基本構造・発生形態・DNA、RNA、中枢神経系の構造、大脳皮質				12	【授業単元】 国家試験対策⑧ 【到達目標】 MMTIについて、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	【授業単元】 国家試験対策① 【到達目標】 骨関節系障害領域について、その概要・要点を理解・説明できる。				13	【授業単元】 国家試験対策⑨ 【到達目標】 介護保険制度について、その概要・要点を理解・説明できる。 IADLとICFについて、その概要・要点を理解・説明できる。			
6	【授業単元】 国家試験対策② 【到達目標】 中枢神経障害領域について、その概要・要点を理解・説明できる。				14	【授業単元】 国家試験対策⑩ 【到達目標】 障害者総合支援法について、その概要・要点を理解・説明できる。			
7	【授業単元】 国家試験対策③ 【到達目標】 内部障害領域について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	【授業単元】 国家試験対策⑪ 【到達目標】 地域包括ケアシステムについて、その概要・要点を理解・説明できる。 定期試験で学習の習得度を理解できる。			
8	【授業単元】 国家試験対策④ 【到達目標】 住環境整備、車椅子について、その概要・要点を理解・説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回10点満点とする。最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは10月15日の模試とする(前期後期合わせて実施)。 定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照;2023年度国家試験対策のスライド資料)。Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは30点、Fは19点として定期試験の評定とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 講師の発言に対し、可能な限りメモをとることを心がけること。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	菅原匡宏(小林誠、渡辺陵介)		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 作業療法士国家試験過程(解剖・生理学)の要点を8割以上理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床面では、整形外科病院に8年間勤務し、現在訪問看護ステーションに勤務(臨床経験14年目)。教育面では、首都大学東京(担当:運動学実習)、医進学園(担当:PT/OT/鍼灸国試対策:オンライン講座担当)に従事。臨床、教育両面の経験を活かした講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエッションバンク					講義内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 国家試験対策① 【到達目標】 創傷治癒、炎症、組織の病理変化、感染、腫瘍について、その概要・要点を理解・説明できる。				9	【授業単元】 国家試験対策⑨ 【到達目標】 肩関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
2	【授業単元】 国家試験対策② 【到達目標】 病理所見、病因、循環器疾患について、その概要・要点を理解・説明できる。				10	【授業単元】 国家試験対策⑩ 【到達目標】 肘関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
3	【授業単元】 国家試験対策③ 【到達目標】 代謝疾患・呼吸器疾患について、その概要・要点を理解・説明できる。				11	【授業単元】 国家試験対策⑪ 【到達目標】 手関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
4	【授業単元】 国家試験対策④ 【到達目標】 消化器系疾患、内分泌疾患、膠原病、自己免疫性疾患について、その概要・要点を理解・説明できる。				12	【授業単元】 国家試験対策⑫ 【到達目標】 股関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	【授業単元】 国家試験対策⑤ 【到達目標】 骨折、関節リウマチについて、その概要・要点を理解・説明できる。				13	【授業単元】 国家試験対策⑬ 【到達目標】 膝関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
6	【授業単元】 国家試験対策⑥ 【到達目標】 後縦靭帯骨化症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症について、その概要・要点を理解・説明できる。				14	【授業単元】 国家試験対策⑭ 【到達目標】 足関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
7	【授業単元】 国家試験対策⑦ 【到達目標】 変形性関節症について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	【授業単元】 国家試験対策⑮ 【到達目標】 体幹の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。「授業			
8	【授業単元】 国家試験対策⑧ 【到達目標】 脊髄損傷について、その概要・要点を理解・説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回10点満点とする。最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは10月15日の模試とする(前期後期合わせて実施)。 定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照;2023年度国家試験対策のスライド資料)。Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは30点、Fは19点として定期試験の評定とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 講師の発言に対し、可能な限りメモをとることを心がけること。									

授 業 概 要

科目名	地域実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺陵介・他9名		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	2 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域生活支援を実践する場（通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等）で実習をすることにより、地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける。									
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
作業療法士の実習指導者から実習中の取り組みについてフィードバック等の指導を受け、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。 学内で実習前後教育を1単位(45時間)実施し、現場実習を1単位(45時間)とする。担当教員：渡辺陵介・大橋航祐・佐藤祐子・泉良太・大和田みな未・中村勇樹・小泉雄一・田中直幸・濱畑法生・石井茉莉									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料、地域作業療法第3版(医学書院)					日誌の作成、調べ学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (実習前教育) オリエンテーション、実習前セミナー				9	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。			
	【到達目標】 必要な知識を事前学習をし、実習に向けた準備が出来る。					【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
2	【授業単元】 (実習前教育) 実習前セミナー、実習前試験				10	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。			
	【到達目標】 実習前試験に合格し、実習へ向かう準備を完了できる。					【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
3	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				11	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
4	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				12	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
5	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				13	【授業単元】 (実習後教育) オリエンテーション、実習後セミナー			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 実習を振り返り、学習内容を整理することができる。			
6	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				14	【授業単元】 (実習後教育) 実習後セミナー			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 実習を振り返り、学習内容を整理することができる。			
7	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				15	【授業単元】 (実習後教育) 実習後セミナー、実習後試験			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 実習後試験に合格することができる。			
8	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける				①実習地で採点する「基本的能力評価(60点)」、②実習前後試験「OSCE(20点)」、③実習報告書(20点)、計100点で採点をする。 合格基準は学則上の成績判定基準に準ずる。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
地域で生活する対象者、作業療法に興味を持ち取り組むことができる。									

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺陵介・他9名				
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	9	単位	総時間数	405	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：渡辺陵介・大橋航祐・佐藤祐子・泉良太・大和田みな未・中村勇樹・小泉雄一・田中直幸・濱畑法生・石井茉莉											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅱ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <ul style="list-style-type: none"> 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など） ・ 専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の習得 作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能 全体像の把握・考察・記録 再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈 作業療法計画再立案 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺陵介・他9名				
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	9	単位	総時間数	405	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。総合的に対象者像を把握できる。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：渡辺陵介・大橋航祐・佐藤祐子・泉良太・大和田みな未・中村勇樹・小泉雄一・田中直幸・濱畑法生・石井茉莉											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅲ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p>以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <ul style="list-style-type: none"> 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など） ・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の習得 作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能 全体像の把握・考察・記録 再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈 作業療法計画再立案 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小林誠		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士国家試験(精神・心理領域)に合格できる知識を獲得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として16年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年となる。 国家試験対策の指導歴は9年目。OT現役学生はもちろん、OT卒後生や他資格(理学療法士、精神保健福祉士など)の学生にも指導しており、これまでに数百人の国家試験合格に携わっている。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエスチョンバンク 2024 共通・専門 メディックメディア					過去問と向き合う。 授業資料を整理し、自分なりにまとめる。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 国試対策① 統合失調症 その1 【到達目標】 正答率80%				9	【授業単元】 国試対策⑨ 依存症 【到達目標】 正答率80%			
2	【授業単元】 国試対策② 統合失調症 その2 【到達目標】 正答率80%				10	【授業単元】 国試対策⑩ 心理学(心理療法など その1) 【到達目標】 正答率80%			
3	【授業単元】 国試対策③ 気分障害 その1 【到達目標】 正答率80%				11	【授業単元】 国試対策⑪ 心理学(心理療法など その2) 【到達目標】			
4	【授業単元】 国試対策④ 気分障害 その2 【到達目標】 正答率80%				12	【授業単元】 国試対策⑫ 心理学(心理検査など) 【到達目標】 正答率80%			
5	【授業単元】 国試対策⑤ 神経症群 その1 【到達目標】 正答率80%				13	【授業単元】 国試対策⑬ 心理学(その他) 【到達目標】 正答率80%			
6	【授業単元】 国試対策⑥ 神経症群 その2 【到達目標】 正答率80%				14	【授業単元】 国試対策⑭ 精神障害に関する法律や制度 【到達目標】 正答率80%			
7	【授業単元】 国試対策⑦ 摂食障害 【到達目標】 正答率80%				15	【授業単元】 国試対策⑮ 定期テスト 【到達目標】 正答率80%			
8	【授業単元】 国試対策⑧ パーソナリティ障害 【到達目標】 正答率80%				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 100点の内訳は、 国試対策① 出席点 5点 国試対策②～⑭ 小テスト 各回 5点 × 13回 = 65点 国試対策⑮ 定期テスト 30点満点 (以上で、合計100点 満点)				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
過去問は憶えるまで繰り返し解くこと。					※ 中テストは行わない。 ※ 小テストは前回の授業の内容で実施。 例) 国家試験対策①の内容 ⇒ 国家試験対策②の授業内で小テスト実施				

授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	菅原匡宏(小林誠、渡辺陵介)		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間
【授業を通じての到達目標】 作業療法士国家試験過程の要点を8割以上理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床面では、整形外科病院に8年間勤務し、現在訪問看護ステーションに勤務(臨床経験14年目)。教育面では、首都大学東京(担当:運動学実習)、医進学園(担当:PT/OT/鍼灸国試対策:オンライン講座担当)に従事。臨床、教育両面の経験を活かした講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】 クエッションバンク					【授業時間外における学習】 講義内で提示した課題				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 国家試験対策①			9	【授業単元】 国家試験対策⑨				
	【到達目標】 脳血管障害について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 画像診断について、その概要・要点を理解・説明できる。				
2	【授業単元】 国家試験対策②			10	【授業単元】 国家試験対策⑩				
	【到達目標】 高次脳機能障害について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 筋ジストロフィーについて、その概要・要点を理解・説明できる。				
3	【授業単元】 国家試験対策③			11	【授業単元】 国家試験対策⑪				
	【到達目標】 変性疾患について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 パーキンソン病について、その概要・要点を理解・説明できる。				
4	【授業単元】 国家試験対策④			12	【授業単元】 国家試験対策⑫				
	【到達目標】 嚥下障害について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 脊髄損傷について、その概要・要点を理解・説明できる。				
5	【授業単元】 国家試験対策⑤			13	【授業単元】 国家試験対策⑬				
	【到達目標】 正常圧水頭症について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 筋萎縮性側索硬化症について、その概要・要点を理解・説明できる。				
6	【授業単元】 国家試験対策⑥			14	【授業単元】 国家試験対策⑭				
	【到達目標】 筋萎縮性側索硬化症について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 評価表一覧について、その概要・要点を理解・説明できる。				
7	【授業単元】 国家試験対策⑦			15	【授業単元】 国家試験対策⑮				
	【到達目標】 多発性硬化症について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 小児科学について、その概要・要点を理解・説明できる。「授業内定期試				
8	【授業単元】 国家試験対策⑧			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ギランバレー症候群について、その概要・要点を理解・説明できる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回10点満点とする。最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは1月7日の模試とする。 定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照;2023年度国家試験対策のスライド資料)。Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは30点、Fは19点として定期試験の評定とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】 講師の発言に対し、可能な限りメモをとることを心がけること。									